

認定NPO法人ぐるーぶ藤

第17回(通算第29回)通常総会議案書

日 時 : 2021年5月29日(土)

10:30~12:00

場 所 : 藤沢商工会館ミナパーク

総 会 次 第

1. 開 会
2. 理事長挨拶
3. 来賓挨拶
4. 議長選出
5. 資格審査
6. 議事審議
 - 第1号議案 事業報告
 - 第2号議案 決算報告および監査報告
7. 報告
 - 事業計画および事業予算
8. 永年勤続表彰
9. 会長挨拶
10. 閉 会

はじめに

「年をとっても、病気になっても、障がいがあっても、いつまでも自分らしく暮らせる街を創りたい」を理念に掲げ、私たちの市民参加の街づくりの活動は30年目に入りました。5人の仲間が来るべき高齢社会に自分らしく暮らせる仕組みを創りたいと、助け合いの組織を立ち上げ仲間を増やし活動してきました。福祉の最前線にいるからこそ感じるニーズに対応するために、知恵と工夫を出し合い、働く仲間たちの生活基盤も確保できるよう努めてまいりました。いつも活動を支えてくださるご利用者、ご家族をはじめ多くの皆様の温かいご支援のおかげと感謝しております。

新型コロナウイルス感染症の拡大から1年以上が経過し未だ終息の目途が立たない状況ですが、マスクの着用、消毒、換気、飛散防止等、福祉現場として最大限の感染防止対策を講じて、ご利用者・ご入居者およびスタッフの安全に留意し運営してまいります。

一番館、二番館を柱とし、自分らしく生きる街づくりのために、オリジナリティーあふれるサービスを提供し、そこから見えてきたニーズに対応してまいります。長引くコロナ禍で感じられる不安やストレスの中でも自分らしく生きるために、いくつになってもどんな時でも心のよりどころになる居場所と活動の場が必要だと考えます。これからもぐるーぷ藤は、住民が孤立しない地域づくりと、お互いが認め合い、助け合い、自己実現できる場として歩み続けてまいります。

第1号議案

2020年度事業報告

1. 組織運営

今年度は新型コロナウイルス感染症に翻弄された1年でした。高齢者等を支援する施設として、各部門が感染対策に万全を期すよう努力した年となりました。

運営面では、会長は理事長を支えぐる一ふ藤全体運営を担いつつ、外部活動の一環である全国介護事業に関わる施策会議に出席しました。理事長はこれまでの運營業務の引き継ぎ、限られた中で関係各所に会長と行動を共にする一年でした。福祉マンション「ぐる一ふ藤一番館・藤が岡」は開設から14年目に入り、約5か月かけて大規模修繕を実施しました。大がかりな工事でしたが、この間、地元自治会からの空き駐輪場の提供やご入居者等の協力も得て、無事に終わることができました。今年は、どんぐり園をはじめ、学童保育・中学校などとの交流は中止となりました。

ぐる一ふ藤では、ホームヘルプを対人援助の基本と捉え、各部門のスタッフが在宅支援を経験することを方針として掲げています。非常事態の中でも必要とされるご利用者の支援をし、今年度も多くのスタッフが部門を超えて活躍しました。

オープンして4年が過ぎた事業棟「ぐる一ふ藤二番館・アクア棟」やサービス付き高齢者向け住宅「ぐる一ふ藤二番館・柄沢」は、コロナ禍のため、一時的なご利用の変動はあったもののご利用者、ご入居者が定着し、二番館の各部門が連携を取り合い一丸となって支えることができました。

居住支援法人「住まいる・藤」は3年目に入り、住宅確保要配慮者の住まい探しの相談が頻繁にあり、入居後の生活支援活動の件数がさらに増えました。

今年も、事業者・事業所ごとの評価指標を統一化してサービスの質の向上やモチベーションアップにつなげるためにキャリア段位制度導入に向け、その取得者と評価者(アセッサー)の育成に努め、新たに5名が「アセッサー」として登録できました。

運営については、年4回の理事会で予算をはじめ事業運営に関する重要事項の検討を行いました。役員及び各事業部門の代表で構成された部門代表会議を年16回開催し、理事会での決議を踏まえて各事業に関する諸事項の討議を行いました。全会員に対する月1回の運営報告会は、昨年3月から書面報告が続いていましたが、今年1月にZoom報告会に切り替え、運営状況の報告を行い情報の共有を図りました。部門の枠をこえた委員会活動やプロジェクトは、さまざまな形で会員が運営に参加する機会となりました。

2. 事業・活動部門

2-1 訪問介護事業（ぐるーぷ藤ホームヘルプ）

ご利用者に寄り添いその方らしく暮らしていただくため、心のこもったホームヘルプサービスで在宅生活を支えました。

介護保険事業では、ケアマネジャーと密に連絡を取り、ご利用者の体調変化に合わせた対応を心がけました。コロナ禍でどうしても人との関わりが減っている方が多く、そのための心の変化や下肢筋力の低下など、日々の気づきをヘルパーから聞き取りながら、ケアマネジャーへ報告するよう心がけました。

障がい者総合支援事業では、様々な障がいの方々の特性や個性を尊重し寄り添っていけるよう、関係機関と情報を共有しながら、協力しあい支えるよう努めました。長く関わってきた障がいの方の例では、ヘルパーが作るバランスの良い温かい食事と、関係各所の皆で無理強いせず継続して見守ってきたことが、ご本人の意欲を少しずつ引き出し、最近では体重減量の目標値を定め頑張る姿を見られるまでになりました。寄り添ってその方らしい生活を支え続けることの大切さを改めて実感することができました。

本来事業では、介護保険で対応できないケアや、今までの生活や思いを維持するために必要なサービス、緊急を要するものなど、できる範囲で対応しました。二度の緊急事態宣言により、ご利用者と相談の上、お休みあるいは時間を短縮して対応することもありました。子育て支援については、コロナ禍でご主人の在宅勤務が多くなった影響もあってか、依頼はありませんでした。

今年度の会議・研修は、3密を避けるため書面開催となりましたが、介護力向上や対人援助の基本はもちろん、社会情勢に合わせた感染予防策の周知の徹底などにも力を入れました。

2-2 通所介護事業（アクアデイ菜の花）

運動特化型デイサービスとして個別機能訓練を重視したプログラムを作成し、その方に合った最適なプログラムを提供してきました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の流行により、マッサージ等中止せざるを得ないプログラムもありました。国土館大学体育学部須藤明治教授に感染症予防のアドバイスをいただき、大型扇風機を室内に設置し定期的に換気を行いました。また教授の「プールの中は安全です」の言葉に、スタッフは自信を持ってプールでの運動を実施できました。利用人数を制限して密を避け、イオンクラスターを新たに購入し予防に取り組みました。

感染症予防の為自主的に休みされる方が増えていく中、「休まずにいてくれてありがとう」と感謝の言葉をいただきました。また、サービス付き高齢者向け住宅の方に外出自粛の中安心して運動できる場として利用していただき、「ここがあって良かった」の言葉をかけてもらい、スタッフの励みにもなりました。

消毒が難しく中止していた和太鼓は、早く再開してほしいというご利用者の希望に添うため、予防策を強化し再開することができました。久しぶりの太鼓の音に自然と拍手が沸き起こりました。籠りがちになって人と話す機会が減ったご利用者が増えてきた為、口腔体操に力を入れました。セルフアロママッサージ、フラダンス体操などソーシャルディスタンスを保ちながらできるプログラムを行い、ご利用者の身体機能向上に努めました。事業所評価加算を取得した事業所として介護度の維持・向上をめざしましたが、コロナ禍の影響を受けて目標達成が難しい状況となりました。

2-3 居宅介護支援（ぐるーぷ藤ケアマネジメント）

高齢化が進み、機能低下による心身状況の悪化で、在宅生活の継続が困難になられたご利用者が多くみられました。特に転倒による入院や認知症高齢者世帯の脱水症による急変には、プラン変更とサービス事業所との調整を迅速に行い、ショートステイ利用やグループホーム入所、看護小規模多機能型居宅介護に移行等の支援に結び付ける事ができました。

新型コロナウイルスの感染を恐れ、デイサービスの利用や外出を控えた方々には筋力・歩行力低下の予防を図るため、訪問リハビリや機能訓練中心の半日型デイサービスを提案し、筋力の維持ができました。

サービス付き高齢者向け住宅に入居されているご利用者には、コンシェルジュをはじめ同一敷地内の小規模多機能型居宅介護・デイサービス・レストランのスタッフ協力のもと、日々の生活を見守り支える事ができました。

ケアマネの資質向上のため、地域ケア会議や専門職の講義等外部研修には積極的な参加を予定していましたが、コロナの影響で年度の前半は中止を余儀なくされました。そのため内部研修で、ケアマネミーティングを中心に各担当が受け持っている困難な事例を解決・改善に向けて検討し、意見交換を行いました。

またコロナ禍での定期的モニタリング訪問・担当者会議・相談業務・サービスの調整には感染対策を徹底しました。重症化のリスクを抱えたご家庭には電話でのモニタリング及び玄関先での訪問対応を行う事で確認し、ご利用者やご家族にはご理解をいただきました。例年とは異なる状況でコロナ対策や事例検討等を中心に情報共有を行った事でケアマネ間の協力体制を更に強化する事ができました。

2-4 小規模多機能型居宅介護（ぐるーぷ藤 藤の花）

在宅生活を基本に「通い・泊まり・訪問」を組み合わせたサービスでご利用者とご家族が安心して過ごせるように支援しました。ご利用者の個性を大切にしコロナ禍でも自分らしく過ごせる環境作りと一人ひとりの意向を尊重した対応を行いました。

今年度は新型コロナウイルス感染症予防対策としてボランティアの受け入れ・集団で行うイベント・外食を中止しましたが、個別のカルチャーや食事をこれまで以上に楽しめるように厨房と共に努力しました。緊急事態宣言時にはご利用者のご家族の協力により一日の通いの人数を減らし、訪問の回数を増やすことで対応しました。1か月1000回を超える訪問で様々なニーズに応じてご家族から感謝されました。

買い物等人混みへの外出が制限される中、近隣への歩行訓練・敷地内での日光浴、少人数でのドライブ等で引きこもりがちのご利用者の心身のバランスを保てるように努めました。室内はテーブルパーテーション・イオンクラスター・換気消毒等のできる限り安全な空間を作り、個別対応を心がけました。また、部屋全体に季節を感じられるような装飾を施し、和やかな雰囲気作りを大切にしました。

ご家族の入院により在宅生活が困難になられた方、体調を崩され在宅生活に自信がなくなり精神的に不安定になられた方を泊まりで受け入れ、グループホームに入所されるまで支えました。同一敷地内のサービス付き高齢者向け住宅のご利用者にはご家族の訪問が減ったことによる不安や不自由になった日常生活のサポートをしました。

地域の方々との交流の機会は減りましたが、恒例のハロウィンのイベントに地域の子も延べ65人がソーシャルディスタンスを守りながら訪れて、「こども110番」の駆け込む場所として地域の子もたちとの接点となる機会になりました。

2-5 看護小規模多機能型居宅介護（ぐるーぷ藤 しがらきの湯）

今年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止を図りつつ安心して通いを利用できるよう対応する活動が中心でした。3密を避けこまめな換気、手洗い、マスクの着用、パーテーションの設置、少人数（8名）通い利用者・職員の検温、健康状態の把握に努めました。

「通い」「泊まり」「訪問介護」「訪問看護」「ケアプラン」のサービスを組合せ、生活の支援、医療的ケアが必要な方が在宅での生活を安心して継続できるよう支援を行ってまいりました。ご家族の都合や体調不良、精神的疲労、入院などの理由でサービス内容を変更することもあり、臨機応変な対応を行いました。地域包括支援病棟や老人保健施設からの新規依頼が多く、退院直後から在宅生活へ不安を抱えるご利用者・ご家族への対応、希望や思いを傾聴し病状観察やケアを含めた柔軟な支援は、在宅生活を継続するということに安心感を与え信頼関係を作りました。

日々の介護スタッフの気づきが病状の早期発見につながる等、疾患がもたらす影響等の情報共有をし、介護士、看護師が連携を図り個別機能訓練計画を立案、

実施することでご利用者の在宅生活を支える事ができました。介護士、看護師との連携は、ともに学びの場ともなりました。

1月に通いサービスのご利用者1名が発熱、すぐに受診とPCR検査を依頼し濃厚接触者を特定、スタッフを自宅待機にしました。翌日陽性との報告を受け、保健所へ連絡を入れると同時に業者を導入し、施設内の消毒等を行いました。藤沢市をはじめ、保健所、神奈川県との協力のもと、ご利用者スタッフ合わせて62名がPCR検査を受けることができその結果、スタッフは全員陰性であることが判明しました。感染予防の基本方針に基づき、感染者の発生時は通いサービスを中止し、すべて訪問に切りかえました。ご利用者家族との連絡・説明を密に行う事で、ご家族の協力を得ることができ、大きな混乱もなく乗り越えることができました。ご家族からは、「ありがとうございます。」「頑張ってください」等のねぎらいの言葉をいただきスタッフ一同、心から支えられた体験をしました。

2-6 障がい者グループホーム（藤が岡の家・本藤沢の家）

20代から60代の精神・知的障がいのある方たちが、緩やかな家族のように暮らすグループホームでは、安心して社会性のある毎日が過ごせるよう支援をしました。仕事・健康・家事・家族関係等困った時に、なじみのスタッフや他部門のスタッフ、関係各機関の方たちと連携しながら支援を行う事で、その方らしい生活が続けられるよう手助けしてきました。

コロナ感染が広がる中、情報を取り入れてそれを正確に理解する事が難しい障がいを持つ方達に、マスク、手洗い、外出自粛等を理解していただくことが重要な業務でした。感染予防と心身の健康を維持する事のバランスをとるのが難しく、個別に対応を変えてコロナ下での生活様式に慣れるようスタッフともども努力しました。ご入居者それぞれの自分ルールを変えることは困難な事でした。

ご入居者の高齢化が進み、精神症状の重篤化や身体疾患の増加で医療との連携が頻回になってきました。通院同行や医師・看護師との連絡調整が必要なケース、成年後見が必要となるケースが増えてきました。

◆ 藤が岡の家

複合施設の中にあるグループホームという特色を生かし、他部門のスタッフの協力を得て安心できる住まいを提供してきました。今年は毎年の自治会お祭りへの参加、毎月のボランティアとの食事会等様々な人との関わりを持つ機会が失われ、社会とつながる機会が減ってしまいましたが、パーティションを利用してグループホーム内での食事やお茶会で楽しみが持てるよう努力しました。高齢化により精神症状が悪化した方が入院するという出来事もありましたが、新しい30歳代のご入居者が加わりました。

◆ 本藤沢の家

市内では数少ない、アパート形式で自立性の高い本藤沢の家での暮らしの中では、毎日の夕食時間が重要なコミュニケーションの場となっています。しかし今年度はコロナ禍により密を避け黙食、個食をすすめる為、パーティション設置・消毒はもちろん、2グループに分けて夕食提供する事となり、意見交換の場であるホームルームも少人数に限って行う事となりました。毎週土曜日の料理サークルや、ボランティアとの語らいを楽しみにしていた手芸サークル「けいと玉」も中止となりましたが、年末の「今年の一文字」、正月の「お雑煮屋さん」と生活のアクセントとなるイベントを行い、厨房の季節感のある食事も単純な日常のなかに輝く楽しい日となりました。

2-7 障がい者相談支援事業（計画サポートぐる一ふ藤）

障がいがあっても地域で自分らしく暮らし続けていくために、5人の相談支援専門員が様々な制度やサービス、社会資源や人を調整しその方に寄り添い活動してきました。在宅で親亡き後の心配をする知的障がいの方のご家族や精神科病院からと相談依頼は多岐にわたり、障害福祉制度の中では解決しきれないような事例もありました。

障がい者の相談支援の場合ご本人の要求とニーズを吟味し、関係する事業所、医療関係者、他の相談機関、障害福祉課等行政との連絡調整を行う事が大切です。一見困難と思われるケースにも、相談支援専門員は一人で抱え込まず事業所全体で取組んでいくことで、様々な意見が出て事態の解決の糸口が見つかる事も多々ありました。一方コロナ禍で引きこもりがちな精神障がいの方がさらに外出しなくなり、定期的に連絡を取る相談支援専門員がその方の唯一の社会との接点になる場合もありました。

相談支援事業所が少ない中、様々な障害特性を理解したうえでその方に合ったサービスや事業所を探す情報収集能力と、マッチングの為にネットワークを駆使してご利用者の安心できる生活を手助けしました。

2-8 高齢者住宅（ぐる一ふ藤一番館）

お住まいの方にその方らしく心豊かに暮らしていただくために、ご本人、ご家族と相談しながら介護保険による看護小規模多機能型居宅介護、小規模多機能型居宅介護、ホームヘルプ、外部事業所のデイサービスなどを利用し生活の質を維持できるように支援しました。

今年度はコロナ感染症対策に対応する一年でした。ご入居者の体調管理を行うと共に救急車にも搭載されている空気清浄機をいち早く導入し換気や室温、湿度管理を行い、日々の消毒対応スタッフをさらに増員し環境整備に努めました。スタッフは、かつてない緊張感の中で日々ケアを継続しました。そのような

中で行政をはじめ保健所、ご家族の皆様、地域の方々には、温かい励ましのメッセージを頂きスタッフ一同の心の支えとなりました。

町内会との交流や、毎年好評の行事は行う事ができませんでしたが、食を通しての楽しみを管理栄養士、調理師と連携し提供することに努めました。ご入居者の出身地ご当地メニューや、お寿司のケータリングの利用や、思い出の献立をメニューに取り入れ提供を行いました。また、外出が制限される中で運動不足とストレス解消のために体操や、フラダンス教室を行い体を楽しく動かす機会を持ちました。

看取りに対してもご家族の気持ちに寄り添い、今できることを具体的に提案する等、いつでも相談できる体制をとり、その方らしく穏やかに最期の日を迎えることができるように他部門多職種とも連携を図り対応しました。今年度は、感染症対策に配慮をした防災訓練を行いました。

2-9 サービス付き高齢者向け住宅（ぐるーぷ藤二番館・柄沢）

開設から4年が経過し、目標を上回る方々にお住まい頂いています。年齢も60代から100歳を超える方まで幅広く、そのためコンシェルジュの対応も毎日の安否確認や生活相談サービスを始め救急車の緊急対応、催し物の案内・引越し支援・館内外の清潔保持等多岐に渡っています。今年度は常駐の管理人に代わり夜間駆けつけ隊を組織し夜中の緊急対応に備え、ご入居者の安心・安全・快適な住空間の確保に努める多様な援助を行いました。夜間の実際の活動はセコムのライフ異常が多く、運用に課題も残しました。

また今年度はコロナ禍での高齢者の住まい方を模索した一年でした。ご自由に住んでいただくサービス付き高齢者向け住宅ならではのルール作りに心を砕きました。年度当初の緊急事態宣言では、マスクの着用や手指の消毒の徹底呼びかけ、自動体温測定器導入や玄関入り口に洗面台も設置しました。3蜜を避けるためエレベーターの乗り合わせも2名以内と呼びかけました。しかし年明け再度の緊急事態宣言となり、藤沢市からも保健師の訪問を受けました。毎朝のラジオ体操・そば打ち・お花見会・カラオケ大会等イベントは全て中止となりました。玄関口消毒マットの導入など施設の更なる消毒の強化に加え、ご家族の面会の一部自粛をお願いしました。ひきこもりがちのご入居者の心身のバランスを見守りながら、人数や時間の配慮をお願いし少しずつ交流は再開しました。

同一敷地内にある小規模多機能型居宅介護、デイサービス、居宅介護支援、レストラン等のサービスと連携することで情報を一元化し、ご入居者の体調に合わせて食事の形態を工夫するなどスムーズに支援内容を調整でき、サービス付き高齢者向け住宅の役割を果たすことができました。しかしコロナ禍でこれらのサービスを使わず自立されているご入居者の情報把握の課題も見えてきました。コロナ禍での新しい生活様式を探った一年間でした。

ホームヘルプ・小規模多機能型居宅介護・看護小規模多機能型居宅介護のサービスを組み合わせるなど、法人一丸となって取り組み、切れ目のない援助でご入居者ご家族を最期まで支えることを心がけました。

2-10 厨房及びレストラン オハナ

厨房では管理栄養士がカロリーや塩分に気を配った体に優しい献立を作成しました。食事介助も行うことでアセスメントに生かし、ご利用者に寄り添った献立を作ることができました。

また徹底した衛生管理・商品管理を行い、安全性を確認してから一番館にお住まいの方・医療依存度の高い看護小規模多機能型居宅介護のご利用者の食事を提供しました。

緊急事態宣言が発令された後、厨房では手袋・マスクの着用をこれまで以上に徹底し感染予防に努めました。その他の予防対策として使い捨ての紙皿・スプーン等も揃えました。

季節感あふれる行事食や「長崎ちゃんぽん風うどん」「名古屋味噌カツ丼」「宮崎チキン南蛮」「横浜中華粥」「山形具たくさん芋煮」等ご当地グルメを味わえる献立も大変好評でした。

併設のレストラン「オハナ」は春から新たなる憩いの場をめざしリニューアルオープンの予定でしたが、コロナ禍により営業を自粛せざるを得ませんでした。本藤沢の家の夕食提供は継続し、世代に幅のあるご利用者に満足して頂けるようメニューに変化をつけ対応しました。

2-11 レストラン マハロ

サービス付き高齢者向け住宅にお住まいの方の昼食から夕食まで幅広い献立で温かい食事を提供しました。

今年度はコロナ禍で食にまつわるイベントが開催できませんでしたが外出自粛の中で、話し相手になれるよう来て下さった方々とのコミュニケーションを大切にしました。

特にティータイムは手作りケーキを楽しみにたくさんの方が来て下さいました。食事の場でのコロナ対策として飛沫感染予防のパーテーションの設置と定期的な消毒・清掃以外に、お帰りになった後の消毒を毎回行うなど徹底的な感染予防対策を行いました。

小規模多機能型居宅介護には特別食をはじめ 七夕・敬老の日・ハロウィン・クリスマス・七草粥・鏡開き等の行事食、誕生日会のデザートを提供してご利用者に喜ばれました。

コンシェルジュや二番館で働くたくさんのスタッフと連携をとりながらお住まいの方の日常を支える役割も果たしました。

2-12 総合相談窓口

総合相談窓口は、看護師・保健師・介護福祉士・社会福祉士・精神保健福祉士・ケアマネジャー等が多数在籍しているぐるーぷ藤の地域活動として、福祉・医療、住まいの相談に加え、今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により就労が困難になった方の相談に応じました。

感染症予防の観点から、館内への立ち入りを制限したため来館での相談は減りましたが、障がいサービスの問い合わせや住まいの相談など電話での相談が多数ありました。就労相談では相談者の状況に合わせ、職場を提供する等の支援を行いました。また、ホームヘルプのご利用者が、一番館近くで迷っている高齢者を保護してご一緒に来館され、藤から警察に連絡をして事なきを得ました。ご利用者は「ぐるーぷ藤なら助けてくれると思った。」と話され、日ごろのヘルパ一対応の良さがうかがわれることもありました。

長年の経験を生かし一人ひとりの状況を理解し、弁護士・民生委員・地域包括支援センター等に橋渡しをする地域の駆け込み寺・NPO版地域包括支援センターの役割を果たしました。

2-13 地域ささえあいセンター（ヨロシク♪まるだい）

地域ささえあいセンター「ヨロシクまるだい」は、地域の中で孤立したり生活に不自由を感じたりする方に手助けをする場として10月に7年目を迎えました。地域の方々に食事と憩いの場を提供できるよう「みまもり食堂」として根付いてきましたが、4月7日に発令された初めての緊急事態宣言に対応する為、今年度は当初から食堂を中止しました。解除後は洗面台、自動体温計、調理スペースのロールカーテン、テーブルのパーテーション等設備を整えて、密を避けるために40食を20食に減らして食堂を開きましたが、市からの要請もあり再び閉店しました。しかし地域の方々の強い要望から3月に入りスープのテイクアウトを1日20食限定で開始しました。

地域の縁側としての相談窓口は平常通り開け、生活支援コーディネーターによる見守り、生活相談を続けることができました。ヨロシク・まるだいの前を疲れた様子で歩いていた高齢女性に声をかけ、休憩をお誘いしました。歩行や買い物の不自由な事、家事が十分にできず困っていること等聞いて、地域包括支援センターに繋ぎました。後日その方が歩行器を利用して元気にお買い物に出かける様子が見られ、コーディネーター一同大変うれしく思いました。

外出制限があり孤立しがちな高齢者が少しでも人と接する機会を持てるよう、イベントは人数制限・予約制で内容を限定し太極拳、健康体操、フラダンス、手芸、地域の写真サークルへのギャラリー提供を行い、新たに黙々とする書道も始めて大変喜ばれました。

昨年に引き続きシリーズで行っている「終活セミナー」、「おしゃべり会」、「オ

レンジまるだい」は脳トレを中心に行い、地域の参加者が広がってきました。食事の提供ができなかったにも関わらず毎月200人を超える方々と支え合うことができました。

今年度も利用者アンケートを実施し、パソコン、スマホ教室やZoom体験の希望が多いことがわかりました。

藤沢地区ささえあい会議では自治会、民生委員、老人会、公民館、地域包括支援センター、行政等と情報交換、意見交換等行い地域作りを担う他団体との連携に努めました。そこでは地域生活に役立つ「地域ささえあいマップ」を作成しています。より一層地域との交流を図る為公園体操、公園掃除にも参加しました。

2-14 子どもの生活支援事業（こどもまるだい）

子ども生活支援事業「こどもまるだい」は5年目を迎え、地域の温かい環境で子ども達に「安心して過ごせる居場所」を提供しました。コロナ禍にもかかわらず子どもへの支援に休みはありません。小学校3年生から高校2年生まで29名の子どもたちは日々成長し、高校生になっても居場所として利用しつづけられる緩やかな仲間のいる場所として定着してきました。万全のコロナ対策をしつつ、家庭的な雰囲気味わえるようこだわりを持って食事提供をしてきました。

今年も農福連携によるたくさんの野菜や、給食が中止になった為お米、カツオ、牛乳などの寄付があり食べきれない食材は子ども達が持ち帰りました。また藤沢商工会議所女性会より5万円の商品券、地域の方からクリスマスケーキや果物、お菓子等もいただいて子ども食堂が認知されるようになってきたことを実感しています。

子どもたちの大好物の天ぷらを作るとお代わりをする子が出てきたり、節分にはそれぞれに具材を分けておき、自分の海苔巻きを作る体験をしました。子ども食堂に賛同された方が、釣りたての太刀魚や鯛を子どもたちの前でさばいてくださり、塩焼きやムニエル、鯛めし等特別な食体験の場にもなりました。旬の食材や行事を取り入れて季節の移り変わりを感じてもらおう心がけました。しかし感染予防のためには皆でそろって食事をする事は避けなくてはならない為、時間差で食事を取るようになりました。皆で同じものを食べ基本的な生活習慣を身につけ、好き嫌いを減らそうという試みについては少しずつですができました。

お楽しみイベントではぐるーぷ藤二番館の駐車場で花火や、初めての餅つき体験をして閉塞感のある日常に少しでも変化を作ってきました。コロナ禍でボランティアの学生達が来られないというハンディがありましたが、近所の大学生が新たに参加するようになり皆が楽しむだけでなく、引っ込み思案な子の心を開くきっかけとなったことが大きな変化でした。

コロナ情報を市の担当者とも共有しながらコロナ禍でも細心の注意をはらい運営しました。子ども達が感染せずに元気にすごせたことで「安心して過ごせる居場所」の役割を果たしました。

3. 管理部門

ぐる一歩藤総体の事務局として管理運営に責任をもち、効率的に業務を遂行できるよう努めました。定款・就業規則・労働基準法をはじめとする法令の遵守を徹底するとともに、請求業務、官公庁への各種届出、特に感染症緊急包括支援事業交付金として、感染症対策や環境整備に要した経費への補助金申請に多くの時間を費やしました。また、利用者と接するスタッフへの慰労金申請にも時間を割き支給することができました。他団体や業者との折衝、物品の調達を確実に遂行しました。今年はコロナ感染症関連の申請書類やアンケート調査に追われる年となりました。予算の執行にあたっては、人員配置・水道光熱費等できる限り無駄を省き経費節減に努めました。

一番館が14年目に入り、LED交換や空調工事、建物全体の大規模修繕を約5か月にわたって行いました。障がい者雇用では、一緒に働く仲間へ溶け込んで就労ができるよう支援しました。

昨年度会計ソフトを変更したことで、今年度はさらに経理処理の時間が短縮できました。また、コロナ禍で加速したデジタル化の流れを背景に、増加するZoom会議への対応や労務・行政に出す書類を電子申請に切り替えるなど一部効率化を図ることができました。

3-1 会員（メンバー）と福利厚生

メンバーの紹介により福祉のまちづくりの理念に賛同する仲間が8名増えました。3月末で会員は151名となり、コロナによる離職者はいませんでした。初めての試みとして、コロナ禍で離職をした方の支援として市主催の合同企業説明会に参加しました。また、各々の資格や能力を生かして皆がやりがいをもって働ける多様な職場づくりをめざし、自己実現の場をつくりました。福利厚生の充実にも努め、働き方改革における「年5日の有給休暇取得」は対象者の100%が取得しました。今年度は、演劇鑑賞会はほとんど参加できませんでした。恒例の交流会はメンバーのアイデアで紙面での会員紹介をし、会員の新たな側面を知ることができました。年度の終わりに「年度末ドリームジャンボ宝ふじ」券を配布しオンライン抽選会を行い、明るい話題を振りまきました。

福祉関連有資格者（2021年3月現在・重複あり）

ホームヘルパー 1級：	3名
2級：	85名
Aヘルパー修了者	5名
初任者研修修了者	12名
実務者研修修了者	12名
同行援護従事者	7名
行動援護従事者	4名
同行援護サービス提供責任者	2名
ガイドヘルパー	24名
認定特定行為業務従事者	9名
（喀痰吸引研修修了者）	
介護福祉士	70名
保健師	1名
看護師	8名
柔道整復師	1名
介護支援専門員	15名
障がい相談支援専門員	9名
精神保健福祉士	3名
社会福祉士	5名
社会福祉主事	3名
福祉住環境コーディネーター	6名
認知症ケア専門士	1名
学習療法士1級	1名
管理栄養士	2名
栄養士	7名
調理師	8名
食品衛生責任者	10名
キャラバンメイト	6名
普通救命講習I修了者	173名
シニア・インストラクター	2名
アセッサー講習修了者	6名

3-2 広報活動

新型コロナウイルス感染が拡大する中、法人では状況にあわせてより良い予防方法を取り入れてきました。その取り組みをホームページのトップページに分かりやすく掲載しました。また、新型コロナウイルス感染症に関する正確な情報を遅滞なく発信しました。

広報誌「花どけい」でも同様に、新型コロナウイルス感染症に対する法人の予防対策を紹介しました。また、コロナを正しく恐れながらも新しい生活様式を取り入れ、楽しく、力強く生活するご利用者やスタッフたちの様子を掲載することで、ご家族や地域の皆様にも安心していただける紙面づくりを心がけました。また、新しいコーナーを設けたり川柳大会を行うなど、より身近で親しみやすく、読みやすい広報誌をめざしました。

活動3年目となる居住支援法人「住まいる藤」の活動内容やセミナー案内を広報誌の特集やホームページに掲載し、オンラインでのセミナーを実施しました。気軽に参加できるオンラインだからこそ、不動産業者や福祉事業所と新しい繋がりを持つことができ、広報としての役割も果たしました。

3-3 諸団体での役割

- ・認定NPO法人市民福祉団体全国協議会 代表理事
- ・一般社団法人市民福祉支援協議会 代表理事
- ・民間介護事業推進委員会 委員
- ・藤沢市個人情報保護制度運営審議会 委員
- ・藤沢市住まいと暮らし連絡会 役員
- ・藤沢市精神障がい者地域生活支援連絡会 委員
- ・ふじさわ福祉NPO法人連絡会 代表
- ・藤沢市相談支援連絡会 委員
- ・フードバンクふじさわ 準備委員・運営委員
- ・藤沢市居住支援協議会 副代表

4. 研修プロジェクト

学びの3本柱「理念と意思の共有」「スキルアップ」「新しい介護」を継承するために今年度も研修プロジェクトを設置しましたが、コロナ感染拡大により集合しての研修ができず、予定を大幅に変更する事となりました。

毎年行ってきた理念と意思の共有を目的とした「理事長と語る会」は、コロナ禍のため形を変え、密にならないよう回数を増やし参加人数を減らして「理念研修」として9回、95名の参加で行いました。短い時間でしたが少人数だったためそれぞれの思いを確認、共有することができました。管理者研修ではミッションとビジョンについて改めて考え、管理職としての役割の自覚について学びま

した。スキルアップ研修は今年度は集まっての実習ができなかったため、それぞれの部門で工夫しリモート研修や書面での研修を行いました。毎年行い、計27回を迎えていた三重大学教授竹内佐智恵先生の研修は残念ながら今年度は中止となりました

厚生労働省の「介護プロフェッショナル・キャリア段位制度」のアセッサー講習は、昨年行われた「根拠ある介護」研修を受講した各部門のトップリーダーのうち5名がアセッサー講習を受け資格取得しました。

会員それぞれが例年多くの外部研修に参加していましたが、今年度は殆どの研修が中止になり、まだまだ続くコロナ禍での研修参加に課題を残しました。

5. 安全衛生委員会

コロナ禍の中、高齢者をお預かりする施設として、感染拡大を最小限にとどめる策を話し合い準備を進めてきました。

消毒液やマスク、ガウンをはじめ調達困難な衛生用品の取り揃えに努力しました。発熱者や感染者が出た場合等の策の話し合いを重ね、記入用紙やマニュアル作成に取り組みました。残念ながら陽性者が確認できてからは、保健所と綿密に連絡を取り、指示を受けました。感染すると重症化しやすい高齢者の福祉施設であることを配慮してもらい、早い段階で多数のスタッフとご入居者・ご利用者のPCR検査を実施しました。その結果、わずか数名の陽性者にとどまり拡大をくい止めることができました。業者による施設消毒も行いました。この経験から、隔離時の設備品やスタッフの防備の仕方、連絡の在り方など課題がみえ、その都度会議を開き改善策を話し合いました。

セルフケアの充実化および働きやすい職場環境の形成を目的とした「ストレスチェック」を今年も実施しました。スタッフは、自ら感染する不安を抱えながら働いている実情の中で、不安や緊張を取り除く一助として、相談の場を設けたり、公的な相談窓口を周知しました。

今年はインフルエンザの予防接種を一番館のご入居者だけでなく、スタッフの集団接種として一番館と二番館に分けて実施しました。

6. 防災委員会

今年度はコロナ感染症予防のため、大規模な訓練や炊き出し訓練はできませんでしたが、法定の年2回の防災訓練は形を変えて行いました。

1回目は部門ごとの訓練を行い、消火器の位置や防災用品、備蓄品の確認など細部の防災対策を見直すことができました。2回目は緊急連絡網の確認訓練を実施しました。法人全体として連絡網が整理されていないことや、部門により連絡の方法が違っていたことなどがわかり、新たな課題が見えてきました。前年度課題としたマニュアルの策定はコロナ感染症対策を組み込まなければならない

こととなり、再検討が必要となりました。

藤沢市障がい者地域生活サポート事業・地域防災拠点事業費用の交付を受け、災害時の緊急避難場所として必要な防災用品の購入を行いました。近隣の方や障がいの方々が避難してきた場合に備え、コロナ感染症予防も視野に入れた家族別、個人別に過ごせるパーティションやテント等購入しました。また、停電の場合の対策とし蓄電池を配備し、太陽光発電設備のある二番館からの蓄電が可能となりました。

7. 居住支援チーム 住まいる[▲]藤

住宅確保要配慮者の民間住宅への入居に関わる情報提供、相談、見守りなどの入居支援・継続支援を行う居住支援法人として3年目の活動を進めました。

ケアマネジャー、障がい相談支援専門員、精神保健福祉士、社会福祉士、介護福祉士、藤沢市生活支援コーディネーター等の資格を持つ10名のスタッフが、入居受付相談から不動産店への同行・紹介等行いました。

その結果約100件の電話や来訪による相談があり、47件の同行・マッチング支援を行い、サービス付き高齢者住宅等の施設には6件、民間賃貸住宅には9件の入居に繋がりました。住まいる隊の活動では入居時の引越し支援や、17件の継続支援を行いました。コロナ下での活動で人数の制限を行いながらの活動となりました。市内では居住支援「住まいる[▲]藤」の実績が周知されてきて、行政、病院、社会福祉協議会等からの相談が多く入ってきました。また千葉県的生活保護課、横浜市のグループホーム退去者、東京からの移住希望者からの相談もあり、藤沢市だけでなく県外の居住支援関係者からの依頼もありました。

外部への研修は市民協主催のセミナー、外国人住まいサポートセンター主催セミナー等に参加し、また藤沢市精神障がい者家族教室、県居住支援協議会主催研修会等で福祉の居住支援法人として事例発表を行いました。内部研修ではZoomを利用した「これからの賃貸住宅と居住支援」セミナーを開催しました。その中で川崎市の居住支援協議会の取り組みは、先駆的な行政の取り組みとして5月に発足したばかりの藤沢市居住支援協議会の活動に示唆を得られました。コロナ禍で研修参加が難しいためZoomやリモートを利用する事になり、これまでと異なったさらに広い参加者ともつながりができました。

8. 外部活動

幼児教室どんぐり園、コンフォール藤沢自治会、柄沢町内会、ボランティアすみれ及び他団体と連携しながら地域に根ざした活動を行いました。地域で地道な活動をするNPOや障がい者団体等に「まちづくり対策費」を活用しそれぞれの活動を支援してきました。

ふじさわ福祉NPO法人連絡会は代表として隔月開催を予定しました。コロナ禍の影響により書面開催となる事もありましたが、「フードバンクふじさわ」の準備会を立ち上げ3月に設立となりました。

市民協を代表し民間介護事業推進委員会の委員を務め、来年度の介護保険改正に向け厚生労働省老健局課長と意見交換を行いました。また、田中尚輝追悼プロジェクトとして、長年市民を主体とする市民社会の実現をめざした活動をまとめた「田中尚輝 市民活動全史～ジグザク人生 ええ加減記」を発行しました。様々な機会を通して、ぐる一ふ藤の活動を広く紹介するとともに啓発活動を行いました。

※市民協：認定NPO法人市民福祉団体全国協議会

◇講師

- ・ 11/07 湘南平塚看護学校「在宅看護論」
- ・ 11/24 かながわゾンタ講演会
- ・ 11/26 市民協主催居住支援セミナー
「居住支援の取り組み～安心して暮らせる支え合いの形」
- ・ 12/17 保健所主催精神障害者家族教室「精神障がい者の住まい」
- ・ 12/17 精神障がい者家族教室「暮らしを支える人・社会資源」～住まい～
- ・ 01/29 県居住支援協議会・茅ヶ崎市
「知っているようで知らない住まい探しの知識」
- ・ 02/02 江戸川総合人生大学

◇取材、見学等

- ・ 取 材 : 神奈川県居住支援協議会（住まいる藤）
: 高齢者住宅新聞

- ・ 見 学 : 一番館 : 2件 2人
: 二番館 : 2件 2人

9. 30周年記念事業実行委員会

来年度30周年を迎えるにあたり、記念事業を検討する委員会を設置しました。ぐる一ふ藤を創設したメンバーから各部門で活躍するメンバーが集まり計6回の委員会を開催しました。先の見えないコロナ禍での計画は難航し、何度も検討を重ねました。記念誌は藤の歩んできた30年の歴史を普遍的に読める本として計画していくことにしました。

第2号議案

2020年度決算報告書及び監査報告

2020年度 活動計算書 (特定非営利活動に係わる事業)

2020年4月1日から2021年3月31日まで

NPO法人ぐるーぷ藤

(単位:円)

科 目	金	額
I 経常収益		
1 受取会費		
藤会員年会費等収入	12,000	
さわ会員年会費等収入	64,000	
賛助会員年会費等収入	15,000	91,000
2 受取寄付金		
寄付金収入		1,597,829
3 受取助成金等		
助成金・補助金収入	16,784,014	
委託金収入	8,485,674	25,269,688
4 事業収益		
事業収入		418,364,586
5 その他収益		
受取利息	387	
雑収入	3,370,710	3,371,097
経常収益 計		448,694,200
II 経常費用		
1 事業費		
(1) 人件費		
給料手当等	198,543,064	
有償ボランティア	852,970	
通勤交通費	3,409,668	
福利厚生費	435,212	
人件費 計	203,240,914	
(2) その他経費		
食材費	16,588,700	
印刷製本書籍費	1,261,912	
会議・研修費	194,175	
旅費交通費	1,027,844	
通信費	2,520,277	
消耗品費	8,137,478	
修繕費	1,679,736	
水道光熱費	12,177,032	
家賃支出	8,789,000	
リース料	7,059,038	
減価償却費	616,498	
生活支援CD事業費	2,058,076	
保険料・管理諸費	3,375,334	
街づくり対策費	286,216	
雑費	500,903	
その他経費 計	66,272,219	
(3) 事業・間接費		
給料手当等	42,997,959	
賞与手当	9,982,000	
法定福利費	29,356,568	
家賃・地代家賃	4,800,000	
支払利息	18,850,263	
租税公課	8,268,100	
減価償却費	42,846,947	
事業・間接費 計	157,101,837	
事業費 計		426,614,970

2 管理費			
(1) 人件費			
給料手当等	2,870,100		
有償ボランティア	118,299		
通勤交通費	295,240		
福利厚生費	1,859,507		
人件費計	5,143,146		
(2) その他経費			
印刷製本書籍費	195,181		
会議費	142,328		
旅費交通費	382,182		
販売物品費	1,258,344		
通信費	322,464		
消耗品費	1,682,870		
修繕費	617,980		
水道光熱費	165,391		
家賃支出	455,000		
リース料	7,140,882		
研修費	1,017,517		
交際費	186,286		
保険料	1,693,284		
寄付金支出	200,000		
管理諸費	4,187,004		
雑費	1,956,595		
その他経費計	21,603,308		
管理費計		26,746,454	
経常費用計			453,361,424
当期経常増減額			-4,667,224
III 経常外収益			
経常外収益計			0
IV 経常外費用			
経常外費用計			0
税引前当期正味財産増減額			-4,667,224
法人税、住民税及び事業税			70,000
当期正味財産増減額			-4,737,224
前期繰越正味財産額			119,350,337
次期繰越正味財産額			114,613,113

2020年度 貸借対照表

2021年3月31日現在

NPO法人ぐるーぶ藤

(単位：円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金	1,096,368	
小口現金	3,932,000	
普通預金	57,444,114	
未収金	51,054,474	
貯蔵品	702,674	
前払金	4,096,954	
立替金	930,732	
仮払金	5,432	
流動資産合計		119,262,748
2 固定資産		
(1) 有形固定資産		
建物	947,901,460	
建物附属設備	31,516,738	
構築物	28,145,099	
車両運搬具	1,414,987	
什器備品	4,177,512	
土地	166,519,448	
有形固定資産計	1,179,675,244	
(2) 無形固定資産		
水道施設利用権	4,205,998	
電話加入権	180,600	
ソフトウェア	283,500	
無形固定資産計	4,670,098	
(3) 投資その他の資産		
敷金	1,683,000	
保証金	80,000	
投資その他の資産計	1,763,000	
固定資産合計		1,186,108,342
3 繰延資産		
二番館開設準備金	2,722,566	
繰延資産合計		2,722,566
資産合計		1,308,093,656
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金	24,520,727	
前受金	26,441,690	
預り金	3,116,369	
預り保証金等	24,553,000	
仮受金	5,047	
流動負債合計		78,636,833
2 固定負債		
長期借入金	923,843,710	
擬似私募債	191,000,000	
固定負債合計		1,114,843,710
負債合計		1,193,480,543
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産		119,350,337
当期正味財産増減額		-4,737,224
正味財産合計		114,613,113
負債及び正味財産合計		1,308,093,656

(注)

- ・ 財務諸表の作成は NPO会計基準(2010.7.20 2011.11.20一部改正 NPO法人会計基準協議会)によっています。
- ・ 消費税等は税込経理により処理しています。

2020年度 財産目録

2021年3月31日 現在

NPO法人 ぐるーぶ藤

(単位：円)

科 目		金 額	
I 資産の部			
1 流動資産			
現金	現金手許有高	1,096,368	
小口現金		3,932,000	
普通預金	7口座	57,444,114	
未収金	国保連未収金	37,614,395	
	利用者未収金	10,185,437	
	その他未収金	3,254,642	51,054,474
貯蔵品	販売物品	232,204	
	食材	145,795	
	会員用消耗品	324,675	
前払金	前払保険料	1,088,194	
	前払いその他	3,008,760	
立替金		930,732	
仮払金		5,432	
2 流動資産合計			119,262,748
(1)有形固定資産			
土地	一番館 藤が岡	166,519,448	
建物	一番館 藤が岡	246,480,890	
	二番館 柄沢	701,420,570	
建物附属設備	一番館 藤が岡	31,053,913	
	二番館 柄沢	462,825	
構築物	一番館 藤が岡	200,119	
	二番館 柄沢	27,944,980	
車両運搬具	自動車6台	1,414,987	
什器備品	一番館 藤が岡	2,404,124	
	二番館 柄沢	1,773,388	
(2)有形固定資産計		1,179,675,244	
水道施設利用権	二番館 柄沢	4,205,998	
電話加入権		180,600	
ソフトウェア		283,500	
(3)無形固定資産計		4,670,098	
敷金	藤が岡 駐車場4台ほか	1,683,000	
保証金	セコムAED等	80,000	
投資その他の資産計		1,763,000	
3 固定資産合計			1,186,108,342
繰延資産	二番館開設準備金	2,722,566	
繰延資産合計			2,722,566
資産合計			1,308,093,656
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	従業員給料	19,872,757	
	諸経費等	4,647,970	
前受金	高齢者住宅入居金等	26,441,690	
預り金	社会保険料等	3,116,369	
預かり保証金	高齢者住宅敷金等	11,223,000	
	グループホーム敷金	2,058,000	
	サービス高齢者住宅敷金	11,272,000	
仮受金	社会保険料等	5,047	
流動負債合計			78,636,833
2 固定負債			
長期借入金	横浜銀行 二番館・柄沢	655,800,000	
	横浜銀行等	268,043,710	
擬似私募債	一番館・藤が岡	94,500,000	
	二番館・柄沢	96,500,000	
固定負債合計		1,114,843,710	
負債合計			1,193,480,543
正味財産			114,613,113

監 査 報 告 書

NPO法人ぐる一ふ藤
理事長 佐藤 律子 殿

下記の通り監査をいたしましたので、ご報告いたします。

記

- ・ 監査実施日 2021年5月17日
- ・ 立 会 人 理事長 佐藤 律子、会長 鷺尾 公子、常務理事 笹原 美恵子
経理主任 佐藤 由実
- ・ 監査対象期間 2020年4月1日～2021年3月31日
- ・ 監 査 方 法 実査及び立会人からの聞き取り

1. 会計監査

- ・ 諸伝票、預金通帳、現金、証憑書類並びに活動計算書、貸借対照表及び財産目録などについて実査した結果、いずれも適正に処理されていることを認めます。

2. 業務監査

理事長佐藤律子氏及び会長鷺尾公子氏から2020年度事業に関する概要説明を受け、当該事業計画に沿って監査を実施しました。

- ・ 昨年度に続き今年度は、新型コロナウイルス感染症が更に世界中に蔓延し、コロナ対策に翻弄された1年でした。感染すると重症化するリスクの高い高齢者に日々接するスタッフの献身と努力に敬意を表します。
- ・ 感染防止のため一部事業の休止や利用控えによる事業高の減少、感染予防対策に備品・消耗品を購入するなど想定外の支出が多かった中での決算の結果には、様々な工夫や努力があったことと評価します。
- ・ 生活困窮者への食糧支援と社会的孤立者の居場所作りを目的として、ふじさわ福祉NPO連絡会が年度末に「フードバンクふじさわ」を立ち上げ、ぐる一ふ藤が事務局を担うことになったことは新しい活動として期待します。

2021年5月17日

監事 小野 淑子



監事 藤澤 抱一



報告

2021年度事業計画

I. 事業方針

(1) 基本方針

年老いても、障がいがあっても、病気になっても安心して暮らせる地域社会をつくるため、特定非営利活動法人として社会的責任を果たすとともに、市民相互の助け合いのまちづくりをめざします。

(2) 運営方針

1. 組織運営

認定NPO法人ぐるーぷ藤は、趣旨書および定款にもとづき事業を行います。理事会の議決を経て事業と活動の方針について討議する運営会議を月1～4回行います。そこでまとめられた提案事項について毎月開かれる部門代表会議で検討し、その後全メンバーを対象に開催される運営報告会で活動を共有します。また、各部門会議において会員の意見交換を行いその内容を事業活動に反映させる運営をめざします。

昨年度は8名の新しい仲間を迎えそれぞれの部門で活躍してもらうことができました。新メンバーには言葉遣い・接遇マナー・就業規則などを盛り込んだ新人研修や5部門での約20時間の現場研修を通してぐるーぷ藤の歴史や理念、事業を理解してもらうよう努めます。法人全体として、Aヘルパー・初任者研修、介護福祉士・介護支援専門員・相談支援専門員・社会福祉士・精神保健福祉士・調理師等の資格取得を目標に活動するよう引き続き働きかけます。また、介護キャリア段位制度を活用した人材育成に取り組めるよう努めます。

創設の理念を共有し継承することを大切にして、多様な働きかけを実践します。今年度もホームヘルプを対人援助の基本と捉え、各部門のスタッフが在宅支援を経験することをすすめます。部門間の連携を密にし組織力を強め、スタッフのスキルアップにも一層力を入れます。

引き続き、ご入居者・ご利用者・スタッフの感染防止に努めます。

また、一番館・二番館運営により見えてきたニーズに対応するため、昨年秋に立ち上げた三番館建設準備委員会を中心に三番館建設の準備を進めます。

2. 事業・活動部門

2-1 訪問介護事業（ぐるーぷ藤ホームヘルプ）

住み慣れたご家庭で安心してその方らしく暮らしていただくため、ご利用者に寄り添い心のこもったホームヘルプサービスを心がけていきます。

介護保険事業では、ご利用者の体調の変化や日々の会話からの気づきに配慮しながら、コミュニケーションのある温かい介護をめざしていきます。また、ケアマネジャーと連携して、地域で安心してその方らしく暮らしていただけるよう在宅生活を支えています。さらに、関係機関と調整し、必要な方へは次へ繋がるよう支援を行っていきます。

障がい者総合支援事業では、様々な障がいの方の多様なご依頼に、心身の状態や特性を考慮しながら出来る限り寄り添っていきます。ご利用者本人だけでなく、ご家族にも安心していただけるよう心がけます。

本来事業では、その方らしい暮らしを継続するための保険外サービス、緊急時の対応、子育て支援等、様々なニーズに応え、ぐるーぷ藤らしいサービスを行っていきます。

会議・研修では、今年度も対人援助の基本の確認を行い、個々の介護技術や意識の向上に努めます。さらに、引き続き気を緩めることなく、コロナ感染対策にヘルパー一人ひとりが緊張感をもって対応するよう伝えていきます。

2-2 通所介護事業（アクアデイ菜の花）

アクアデイ菜の花は運動特化型デイサービスとして個別機能訓練を重視したプログラムを作成しその方に合った最適なプログラムを提供していきます。会話の中で日々の身体状況を知り、当日の状態を観察・把握しながらご利用者が安心・安全に運動器機能を向上できるように看護師・機能訓練指導員とスタッフが連携をとり実施します。

今年度も感染症対策を徹底しながら水中運動に加え、口腔機能維持と改善のための口腔体操・歩行機能と認知機能の改善をめざした「ふまねっと運動」など機能訓練に取り組みます。またアロマセラピストが調合したリラックス効果のあるオイルで、ストレスや体の不調が長引いて疲れた心と体の緊張をときほぐします。

国土館大学体育学部須藤明治教授に引き続きご指導をいただき水中運動の新型コロナウイルス感染症に対する安全性を伝え、超音波流水プールの情報発信を行います。免疫力アップ、生活習慣病の予防、心肺機能の向上の効果を望めることを周知し、地域の健康寿命を延ばすことに貢献します。内部研修を工夫して行いスタッフの自己研鑽に努めます。

2-3 居宅介護支援(ぐるーぷ藤ケアマネジメント)

認知症になっても疾病を抱えても、住み慣れた地域で人生の最期まで暮らせる事を目標に、ご利用者の意向を尊重したケアプランの作成を行います。

心身機能の低下や体調の悪化、生活環境の急変で在宅生活が困難になられた際には近隣の自治会や地区民生委員の協力を得ながら、きめ細やかなアセスメントと正確なモニタリング等を行い在宅生活を支援します。

昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症予防を徹底しながら、新規相談・計画作成・サービス調整等の業務を法人内事業所や多職種との連携を図り、迅速で丁寧に対応していきます。

サービス付き高齢者向け住宅では、入居されたご利用者の介護認定申請、ケアプランの作成等一貫したサービスで、同一法人内の事業者やレストラン等の協力を得ながら日常生活が安心して送れるよう支援いたします。

ご利用者とご家族にとってより良いケアプランの作成を行うため、内部研修の充実と外部研修の積極的参加に努めます。コロナ禍でZ o o mやWeb配信等、研修環境の変化にも柔軟に対応して多種多様な会議・講習に参加し、ケアマネの資質向上に努めます。

2-4 小規模多機能型居宅介護(ぐるーぷ藤 藤の花)

在宅生活を基本に「通い・泊り・訪問」を組み合わせたサービスでご利用者とご家族がいきいきと過ごせるように365日支援します。ご利用者の個性を大切にし、コロナ禍でも安心して過ごせる環境作りと一人ひとりの意向を尊重した対応を行います。スタッフがご利用者に寄り添い「笑い・喜び・望み」ある生活の継続に努めます。

今年度もご利用者それぞれの希望や趣味を取り入れたアクティビティや、コミュニケーションに力を入れます。引きこもりがちな在宅生活で不安定になる心身機能の維持回復や孤立感を解消できるような支援に取り組みます。

同一敷地内のサービス付き高齢者向け住宅の方々の日常生活支援から細かな相談まで、コンシェルジュ・マハロ・菜の花・ケアマネジャーと連携を深め、いつでも対応できる体制を整えます。

看護師の配置時間を増やし、ご利用者の健康管理、医療との繋がりを強化して様々な身体状況の変化に早期対応できるようにします。

スタッフはご利用者の個別性を十分に理解し、それぞれの目標達成の意識を持って日々サービスの提供に努めます。

2-5 看護小規模多機能型居宅介護（ぐるーぷ藤しがらきの湯）

昨年度に引き続き感染症予防対策を徹底し、医療ニーズの高い方や、退院直後から利用者・家族が安心して在宅での暮らしが継続できるよう「通い」「泊まり」「訪問介護」「訪問看護」「ケアプラン」のサービスを組み立て、生活の支援・医療的ケアを行っていきます。慣れない介護に疲れたご家族のレスパイトケアの為に泊りや、家族の外出のための急な通い泊りの受け入れなど柔軟に対応します。

住み慣れた地域で安心した日常生活が継続する事ができるよう支援してまいります。なじみの顔がいつもそばにいてくれる安心感を大切に、信頼関係を築きそれぞれの方の笑い・喜び・希望を引き出しサポートしてまいります。

生活リハビリを中心に機能訓練を行い日常生活の向上をめざしてまいります。

自治会や子供たち、ボランティアの協力を得て外出の機会を多く持ち、地域との交流を図り社会とのつながりを大切に顔の見える関係づくりをめざします。

2-6 障がい者グループホーム(藤が岡の家、本藤沢の家)

ゆるやかなもう一つの家族として安心できる生活の場を提供してまいります。日常生活の中での困り事を自ら解決する力を引き出し、高齢化による心身の状態の変化に上手に対応していけるよう支援を行ってまいります。

◇藤が岡の家

複合施設の中にあるグループホームという特色を生かし、他部門の協力を得て、地元自治会のお祭り、防災訓練に参加するなど、昨年度行えなかった様々な人と関わりを持つイベントを行えるよう支援してまいります。高齢化による病状の変化に対応し、生活支援や日中の過ごし方の工夫をしてまいります。看護師始め他のスタッフの温かい声かけや見守り、医療との連携で現在の生活を継続できるよう支援します。

◇本藤沢の家

自立したアパート暮らしに近い形で支援を受けながら、安心して暮らせるグループホームという特徴を生かし、毎日の夕食提供を中心にウィズコロナの生活様式を入居者とスタッフがともに作ってまいります。入居者同士の関係性を育み就労先、日中支援事業所、医療等と連携しながら一人ひとりの生活力を高め、それぞれの自立に向けてサポートします。

2-7 障がい者相談支援事業（計画サポートぐるーぷ藤）

障がいがある方やそのご家族の相談にのることで、その方なりの問題解決の方向性を共に探り、ご本人の最善の利益を考え意思決定支援を行ってまいります。専門的な知識と経験を生かし、主として精神障がい者、知的障がい者のサポートを行います。

在宅サービスの支援だけでなく、自立訓練施設やグループホーム利用者への支援、生活困窮の問題、成年後見の問題等、障がい以外の知識や行政等との連携、相談面接の技術が要求されます。相談支援専門員がさらに障がいの理解を深め、多種多様な問題に対応できるよう、昨年度はコロナ禍で出来なかった研修に今年度は形を工夫して行います。

出来る限り多くの依頼に対応したいと考えていますが、まずは一つひとつのケースに丁寧に対応することを大切に、困難なケースについては多様な解決案を検討出来るよう法人内で話し合っています。

2-8 高齢者住宅（ぐるーぷ藤一番館）

「終の棲家」としてお住まいの方にその方らしく心豊かに暮らしていただき最期までご家族と共に寄り添うように努めます。ご入居者の希望や機能に応じて介護保険による看護小規模多機能型居宅介護、小規模多機能型居宅介護、ホームヘルプ、デイサービスなどを利用し、生活の質を維持できるよう支援します。主治医とコミュニケーションを密にし訪問歯科、訪問リハビリ、眼科など連携をはかり健康管理を行っていきます。

また、暮らしの中で心の充実を図るためにお一人おひとりとの対話や、ご家族の声を大切に、思いや望みを叶えられる機会を提案していきます。感染症予防に努め、季節感を感じられる時間を持ち、穏やかで笑顔のある環境づくりに配慮します。

「おもてなしの心」を基本とし、スタッフ一同もう一つの家族としての役割を担えるよう知識・技術の習得に努めます。また、高齢で介護度も高くなったご入居者を念頭に置き、防災訓練を計画的に行いスタッフの防災意識をさらに高めていきます。

2-9 サービス付き高齢者向け住宅（ぐるーぷ藤二番館・柄沢）

介護資格を保有しているコンシェルジュと夜間駆けつけ隊を中心として、お住まいの方々に安心・安全・快適の住まいを提供していきます。昨年度コロナ禍で中止していた体操やお茶会などのイベントを少しずつ再開し、日ごろのコミュニケーションを大切にしていきます。ご入居者全員の主治医の把握などコロナ禍で見えてきた不足している情報の一元化も図ります。また引き続きマスクや手洗い消毒の徹底など感染症対策も行っていきます。ご入居者に寄り添い個々の生き方を尊重しながら集合住宅としての援助を心がけ、満足度の高いサービス付き高齢者向け住宅の運営を行っていきます。

併設する介護保険事業所の応援を得て、法人の二番目の拠点としてご入居者や地域の安心を支える役割も担います。昨年度見送った近隣や包括支援センターに呼びかけての防災訓練も実施し、地域の防災拠点としてしての位置づけを

明確にしていけます。災害発生時には空き室を提供するなど、NPOらしい地域の安心を支える福祉施設をめざします。

2-10 厨房及びレストラン オハナ

厨房では管理栄養士・調理師を配置し、高齢者住宅やグループホームにお住まいの方、看護小規模多機能型居宅介護をご利用の方に安全で栄養バランス豊かな料理を提供できるよう努力します。

減塩食・胃腸食等にも素早く対応し皆様の健康の手助けが出来るようさらなるスキルアップに努めます。

また新型コロナウイルス感染症予防に向け、厨房内での衛生管理を今まで以上に強化します。

レストラン「オハナ」は、この厳しい状況下にあるレストランの運営方法を前向きにとらえ、地域の方に還元できるコミュニティの場を作ります。

そして今出来る事に取り組み引き続き「本藤沢の家」の夕食提供を行います。

2-11 レストラン マハロ

レストランマハロではサービス付き高齢者向け住宅にお住まいの方に、安全で栄養バランスの良い料理を提供できるように努力します。食事だけでなく皆様の憩いの場になるよう努めます。

また働く仲間にも、バラエティに富んだマハロ日替わりランチの楽しみを提供していきます。そしてご自宅でもマハロの味を楽しんで頂ける様お弁当の販売をします。

小規模多機能型居宅介護の厨房として介護食・減塩食などにも対応し、季節感のある献立を楽しんでいただきます。緊急時の対応も引き続き行います。

「ぐるーぷ藤二番館・柄沢」全体の食を担い、コンシェルジュや他部門のスタッフと連携を取りながらお住まいの方の日々の様子を見守ります。

2-12 総合相談窓口

総合相談窓口では看護師・保健師・介護福祉士・社会福祉士・精神保健福祉士・ケアマネジャー等が常駐し、地域の駆け込み寺として福祉・医療・住まいに関するあらゆる相談に応じます。地域の福祉活動をしてきた経験を生かし、緊急のSOSに24時間対応するとともに、必要に応じて弁護士・民生委員・地域包括支援センター・地域ささえあいセンター「ヨロシク♪まるだい」・子どもの生活支援事業「こども♪まるだい」・認知症カフェ「オレンジ・まるだい」・居住支援チーム「住まいる藤」等に橋渡しをする、NPO版地域包括支援センターの役割を担います。また、税理士による税務相談や保健師・看護師による健康相談も継続します。

これからも「福祉のまちづくり」をめざす一環として、相談者に向き合いながら丁寧に対応します。

2-13 地域ささえあいセンター（ヨロシク♪まるだい）

「ヨロシクまるだい」では地域の方々が気軽に立ち寄れる憩いの場・居場所を提供していきます。地域の中で孤立したり、生活に不自由を感じている人に手助けをします。また働く意欲のある人の働く場も続けていきます。

「ヨロシクまるだい」の最も重要な役割であるみまもり食堂は、コロナ感染の状況を見ながら柔軟に提供していきます。

イベント、終活セミナー、認知症サポーター養成講座、おしゃべり会、認知症カフェ「オレンジ・まるだい」は引きこもりがちな生活にならないためにも、誰もが気軽に参加できるよう継続、開催していきます。また、従来は利用できるにもかかわらず破棄されていた商品を必要な方に届け、労働の場を提供する社会的貢献活動「フードバンクふじさわ」の拠点として活動していきます。

生活支援コーディネーターとして利用者の相談に対応し、ニーズを把握、社会資源の発掘とマッチングに努めます。地域包括支援センター、民生委員、自治会員、行政等と連携し、藤沢地区支え合い会議、生活支援コーディネーター会議等では情報交換、意見交換を行い他の縁側事業者と共に手を取り合って地域作りに努めます。

2-14 子どもの生活支援事業（こども♪まるだい）

地域の温かい環境の中で子どもたちに、「安心して過ごせる居場所」、保護者には「安心して子どもを託せる場所」を提供していきます。家庭的な雰囲気味わってもらい温かいものは温かいうちに食べてもらえるようこだわりを持って提供します。

コロナ禍の継続が予想されるため、まずは感染予防、そして好みや環境の違う子どもたちが、みんなで同じものを食べることで基本的な生活習慣を身につけられるよう支援していきます。

ボランティアやスタッフと一緒に宿題をしたり、コロナ感染リスクの少ないゲームなどを工夫して楽しみます。農福連携事業、青年商工会議所との関り、季節毎の様々なイベントを通し地域との繋がりを子どもたち自身が感じられ、地域の中で健やかに成長できるよう見守り支援していきます。

3. 管理部門

ぐる一歩藤総体の事務局として管理運営に責任をもち効率的に業務を遂行できるよう努めます。各部門の請求業務、官公庁への各種届出、他団体や業者との折衝を確実にを行います。予算の執行にあたっては、人員配置・物品管理・水

道光熱費すべてにおいて無駄を省き経費節減に配慮します。コロナ対策に必要な物品が過不足なく調達できるよう努めます。経理・総務間で連携をとり、書式の見直しや簡素化など効率よく仕事ができるよう進めます。

事業拡大によって増加する個人情報の保護には、なお一層配慮し、セキュリティの管理を徹底します。

3-1 会員（メンバー）と福利厚生

まちづくりの理念に賛同する仲間を増やします。コロナ禍で働く不安を少しでも解消し、働きやすい環境をめざします。それぞれのメンバーの資格や能力を生かして、皆が自分らしくはつらつと働ける多様な職場づくりに努め、自己実現の場をつくりまします。多くのメンバーが参加し親睦を深められる交流会の開催、有給休暇の取得の推進、スタッフの腰痛予防研修、健康診断、各種食事代補助、休業補償に加え、今年度より福利厚生サービス「しおかぜ湘南」に加入し、より一層福利厚生の充実を図ります。

3-2 広報活動

地域に定着してきた広報誌「花どけい」は、ご利用者や見学者へ提供するとともに各種講演会でも街づくりの情報発信の媒体として有効活用できるよう、さらに良いものをめざしリニューアルします。

「ぐる一ふ藤二番館・柄沢」入居希望者や問い合わせの方、「アクアデイ菜の花」をご検討の方、居住支援を必要とされている方、そのご家族やケアマネジャーのニーズにも合わせた資料を準備し、配布します。

ホームページでは、分かりやすくタイムリーに藤の活動や情報を紹介します。認定NPO法人として地域に根づいた活動を紹介し、多くの方々と一緒に街づくりを進めることが出来るよう情報共有をします。また、メディアの取材等を通し、ぐる一ふ藤の街づくりを広報していきます。

4. 研修プロジェクト

ご利用者のニーズを的確に把握し柔軟に対応するためには、メンバー一人ひとりに高度なスキルが要求されます。また、日々の業務の中で各メンバーが目標に向かって自己実現を図ることが藤全体の介護の質を高めていくと考え、今年度も『理念と意思の共有』『スキルアップ』『新しい介護』を学びの3本柱として研修プロジェクトを引き続き設置します。

昨年度コロナ禍で変更を余儀なくされた研修を、今年度は感染症対策に充分配慮して実施できるようリモート研修等検討していきます。28回を迎える三重大学教授竹内佐智恵先生の研修、医療公開講座等に加え、地域の方へ向けた新たな研修も計画します。厚生労働省「介護プロフェッショナル・キャリア段

位制度」のレベル認定に対応した「根拠ある介護」に基づき統一した介護の研修に取り組みます。

メンバーのニーズ及び地域社会の情勢に合わせて介護技術や幅広い知識の習得を目的に、研修計画を策定するとともに、キャリアパスに対応した体系的・継続的な研修を組み立てていきます。

5. 安全衛生委員会

産業医の協力を得て保健師を中心に定期的に委員会を開催し、事業所の職場環境および会員の健康保持について情報の共有化を図ります。

腰痛予防のため各部門と協力しながら予防体操を行います。また「心の相談」窓口として公的機関の他に、三重大学教授竹内佐智恵先生の協力をいただき、会員が直接相談できるようさらなる周知に努めます。熱中症、食中毒、感染症の予防に力を入れるとともに、「ストレスチェック」実施結果を生かしメンタルヘルスの不調を未然に防止するよう努めます。

また、昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の対応策を予防マニュアルに盛り込み再検討し、充実した感染予防マニュアル作成に取り組みます。そして、各部門に周知していきます。

6. 防災委員会

昨年度に引き続きぐる一ふ藤全体で防災対策の整備と取り組みを企画検討する目的で、各部門からの代表者を構成員として防災委員会を設置します。

一番館・二番館合同訓練では新型コロナウイルス感染症をはじめとする感染症対策を取り入れた防災訓練を行います。またリスト化された防災用品・備蓄食料の在庫管理を行ない、計画的に更新します。課題であった災害本部の設置を含む法人防災マニュアルは感染症対策を盛り込み、再検討します。

一番館・二番館ともに地域の防災拠点としての役割を担うと共に、ぐる一ふ藤全体で、過去の大規模災害等の教訓を生かし災害についての知識を身につけ、防災意識の向上に努めます。

7. 居住支援チーム 住まいる[🏠]藤

ケアマネジャー、障害相談支援専門員、精神保健福祉士、社会福祉士、介護福祉士、宅地建物取引主任者、藤沢市生活支援コーディネーター等の資格を持つ10名の居住支援チームが、ぐる一ふ藤総体の協力を得て、指定居住支援法人の活動を進めていきます。

住宅確保要配慮者への住まい探しからマッチング、契約、その後の安否確認を行うために、様々な知識や社会資源を活用します。また転居のための引っ越し手伝いや継続支援の訪問に、法人内で組織された『100人の住まいる隊』

の活動をさらに充実していきます。いろいろな事情を抱えた方からの依頼に出来る限り寄り添って、安定した生活が継続できるように支援します。

コロナ禍ではありますが出来る限り学習会やセミナーを開催し、広報誌「花どけい」、ホームページ、地域のメディア等を駆使して居住支援についての相互理解を深めます。市役所関係各課や他の居住支援法人、不動産店、大家さん等と連携し、安心して住める街づくりネットワーク・藤沢市居住支援協議会の活動を構築していきます。

8. 30周年記念事業実行委員会

今年度ぐる一ふ藤は30周年を迎えます。コロナ下で出来ることを模索しながら藤らしい式典を開催します。記念講演はクリエイティブディレクター・クリエイティブコンサルタント・good design company 代表水野学氏を予定しています。記念誌はぐる一ふ藤一番館建設までの成立ちが記されている「私たち、主婦だけで、理想の終の住処をつくりました！」の著者網中裕之氏に依頼し、ぐる一ふ藤30年の集大成として創始からこれからの未来像を伝えられるものにします。

9. 三番館建設準備委員会

“福祉の街づくり”をめざし、一番館・二番館と同様に地域の福祉拠点として、皆と繋がりながら自分らしくいきいきと暮らせる場や多様なメンバーが、お互いに助け合って働く場を作り出すことを目的に三番館建設に着手します。

一番館・二番館の運営で見えてきたニーズの中で、子どもから障がい者、高齢者が居心地よく自分らしく暮らせるような場を提供できるよう三番館建設に取り組みます。

10. 外部活動

幼児教室どんぐり園、コンフォール藤沢自治会、柄沢町内会、ボランティアすみれ及び他団体と連携しながら地域に根ざした活動を行います。今年度も地道な活動をするNPOや地域の団体・行事等に「まちづくり対策費」を活用しそれぞれの活動を支援します。

諸団体での役割は以下の通りです。

- ・認定NPO法人市民福祉団体全国協議会 代表理事
- ・一般社団法人市民福祉支援協議会 代表理事
- ・民間介護事業推進委員会 委員
- ・藤沢市個人情報保護制度運営審議会 委員
- ・藤沢市住まいと暮らし連絡会 委員
- ・藤沢市精神障がい者地域生活支援連絡会 委員

- ・ふじさわ福祉NPO法人連絡会 代表
- ・藤沢市相談支援連絡会 委員
- ・フードバンクふじさわ 運営委員
- ・藤沢市居住支援協議会 副代表

介護保険はじめ福祉に関して市民の立場に立った提案をしていきます。さらに各種講師等の機会を通して、ぐる一ふ藤の活動を広く紹介するとともに啓発活動を行います。

Ⅱ. 事業内容

1) 特定非営利活動に係る事業

(1) 家事、介護、育児等に関する生活支援サービスおよび相談事業

●本来事業

- ① 内 容：高齢者、障がい者などの介護、家事援助および産後、育児等の生活支援および相談
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：藤沢市およびその近接地域
- ④ 従事者人員：50名
- ⑤ 対 象 者：40名
- ⑥ 事 業 費：¥1,419,000

(2) 地域福祉の向上に向けた学習および研修、啓発を図る事業

●介護講座等

- ① 内 容：介護講座
- ② 日 時：6月、7月、11月
- ③ 場 所：ぐるーぷ藤一番館・藤が岡、ヨロシク♪まるだい
- ④ 従事者人員：15名
- ⑤ 対 象 者：藤会員およびさわ会員、地域の方
- ⑥ 研 修 費：¥150,000

(3) 介護保険法にもとづく事業

●訪問介護事業

- ① 内 容：介護保険対象者への訪問介護サービスの提供
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：藤沢市域
- ④ 従事者人員：50名
- ⑤ 対 象 者：75名
- ⑥ 事 業 費：¥9,095,000

●通所介護事業

- ① 内 容：介護保険対象者への通所介護サービスの提供
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：藤沢市域
- ④ 従事者人員：17名
- ⑤ 対 象 者：230名
- ⑥ 事 業 費：¥20,298,600

●居宅介護支援事業

- ① 内 容：介護保険対象者への居宅介護支援サービスの提供
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：藤沢市域
- ④ 従事者人員：5名
- ⑤ 対 象 者：100名
- ⑥ 事 業 費：¥9,564,500

●小規模多機能型居宅介護事業

- ① 内 容：介護保険対象者に「通い」を中心として「泊まり」「訪問」を組み合わせたサービスの提供
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：藤沢市域
- ④ 従事者人員：30名
- ⑤ 対 象 者：29名（登録定員）
- ⑥ 事 業 費：¥43,454,500

●看護小規模多機能型居宅介護事業

- ① 内 容：医療依存度の高い介護保険対象者に看護を組み合わせた「通い」を中心として「泊まり」「訪問」「訪問看護」の提供
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：藤沢市域
- ④ 従事者人員：30名
- ⑤ 対 象 者：29名（登録定員）
- ⑥ 事 業 費：¥54,203,000

(4) 高齢者・障がい者等に対する居宅介護支援および施設サービス事業

●高齢者住宅

- ① 内 容：高齢者に終の棲家としての住宅及び生活支援サービス提供
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：藤沢地区
- ④ 従事者人員：30名
- ⑤ 対 象 者：21名
- ⑥ 事 業 費：¥40,179,000

●サービス付き高齢者向け住宅

- ① 内 容：高齢者の居住の安定確保、安心を支えるサービスの提供
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：村岡地区
- ④ 従事者人員：5名
- ⑤ 対 象 者：50名
- ⑥ 事 業 費：¥13,750,400

●居宅介護サービス事業

- ① 内 容：障がい者総合支援法対象者への訪問介護サービスの提供
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：藤沢市域
- ④ 従事者人員：50名
- ⑤ 対 象 者：65名
- ⑥ 事 業 費：¥10,090,000

●障がい者グループホーム

1. 藤が岡の家

- ① 内 容：障がい者総合支援法対象者へのグループホームの提供
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：藤沢地区
- ④ 従事者人員：5名
- ⑤ 対 象 者：6名
- ⑥ 事 業 費：¥5,398,000

2. 本藤沢の家

- ① 内 容：障がい者総合支援法対象者へのグループホームの提供
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：善行地区
- ④ 従事者人員：7名
- ⑤ 対 象 者：11名
- ⑥ 事 業 費：¥13,766,000

●障がい者相談支援事業

- ① 内 容：障がい者総合支援法対象者への相談支援サービスの提供
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：藤沢市域
- ④ 従事者人員：5名
- ⑤ 対 象 者：50名
- ⑥ 事 業 費：¥1,837,400

(5) 安心して住める地域社会の実現に貢献する事業

●地域ささえあいセンター（ヨロシク♪まるだい）

- ① 内 容：1.生活支援コーディネーターが中心になり誰もが気軽に立ち寄れる通いの場を提供し、地域資源等と連携しさまざまなニーズの把握に努める（委託事業）
2.まるだい食堂での食事の提供やミニディ、介護・医療相談等通いの場の運営（補助金事業）
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：藤沢地区
- ④ 従事者人員：20名
- ⑤ 対 象 者：多数
- ⑥ 事 業 費：¥10,326,100

●子どもの生活支援事業（こども♪まるだい）

- ① 内 容：子供の生活支援事業
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：藤沢地区
- ④ 従事者人員：10名
- ⑤ 対 象 者：25名
- ⑥ 事 業 費：¥4,056,000

●居住支援事業（住まいる[▲]藤）

- ① 内 容：住宅確保要配慮者への住まい探し、マッチングの後の入居者の生活スタイルに最適な居住継続支援
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：藤沢市域
- ④ 従事者人員：14名
- ⑤ 対 象 者：92名
- ⑥ 事 業 費：¥4,005,000

（6）レストラン・厨房事業

●レストランオハナ・厨房事業

- ① 内 容：ぐる一ふ藤利用者への食事提供
一番館で働くスタッフおよび一般の方へのレストラン運営
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：藤沢地区
- ④ 従事者人員：15名
- ⑤ 対 象 者：多数
- ⑥ 事 業 費：¥20,806,000

●レストランマハロ・厨房事業

- ① 内 容：サ高住にお住まいの方、ぐる一ふ藤 藤の花利用者、
二番館で働くスタッフ、その他近隣の方への食事提供
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：村岡地区
- ④ 従事者人員：10名
- ⑤ 対 象 者：80名
- ⑥ 事 業 費：¥16,187,100

(7) まちづくり活動を行う団体等への支援事業

●まちづくり対策費

- ① 内 容：まちづくり活動を行うNPO法人、障がい者団体等や被災地支援活動を行う団体等に対する寄附事業
- ② 日 時：通年
- ③ 場 所：藤沢市域、他被災地等
- ④ 従事者人員：5名
- ⑤ 対 象 者：10～15団体
- ⑥ 事 業 費：¥360,000

(8) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

●総合相談窓口

- ① 内 容：福祉・医療に関する相談業務
 - ② 日 時：通年
 - ③ 場 所：藤沢地区
 - ④ 従事者人員：10名
 - ⑤ 対 象 者：多数
- ※各事業費に事業間接費は含まず

2021年度活動予算書（特定非営利活動に係わる事業）

2021年4月1日から2022年3月31日まで

NPO法人ぐるーぷ藤

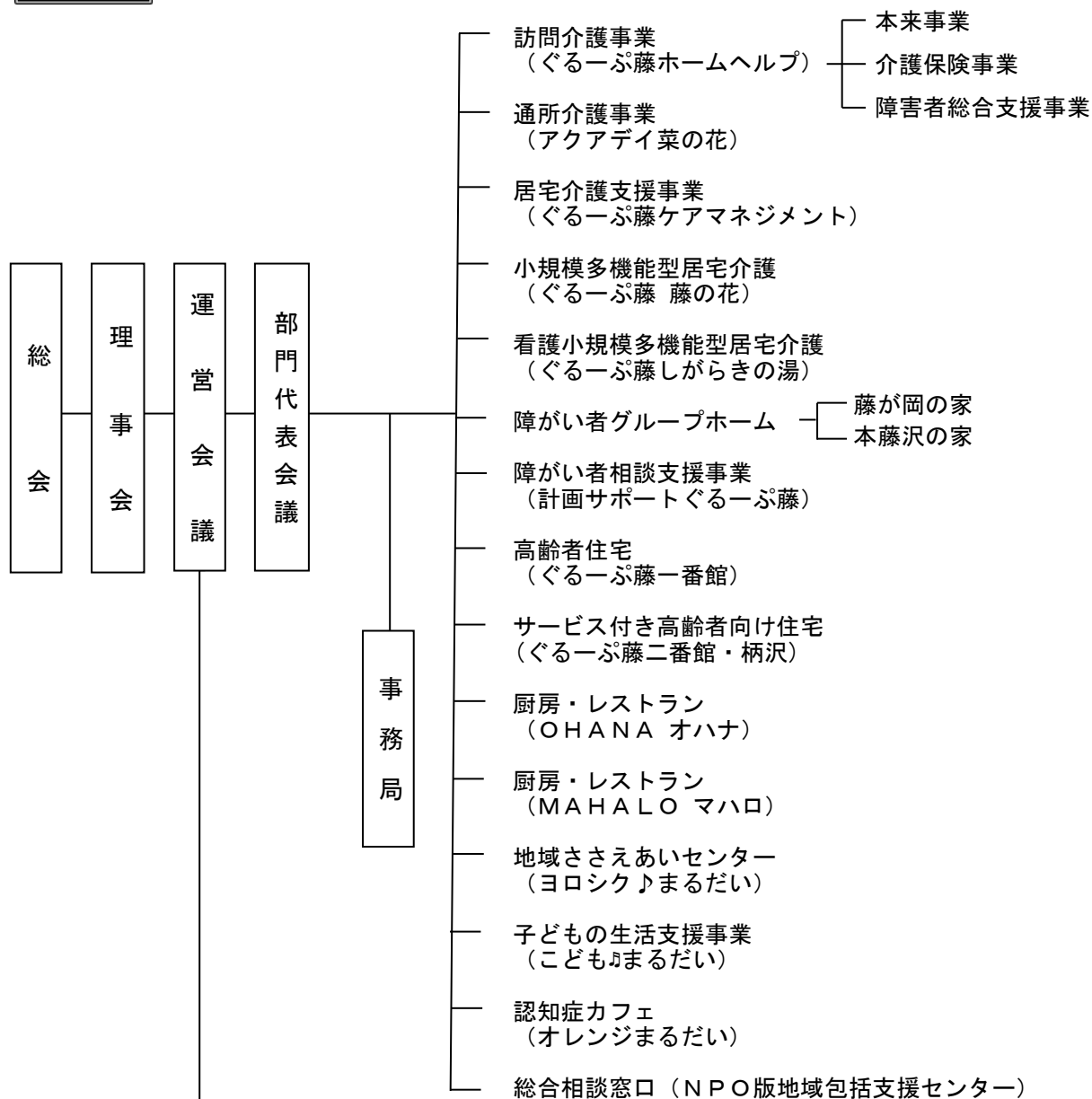
(単位：円)

科 目	金	額
I 経常収益		
1 受取会費		
藤会員年会費等収入	15,000	
さわ会員年会費等収入	70,000	
賛助会員年会費等収入	15,000	100,000
2 受取寄付金		
寄付金収入		2,000,000
3 受取助成金等		
助成金・補助金収入	6,920,000	
委託金収入	8,485,500	15,405,500
4 事業収益		
事業収入		449,725,000
5 その他収益		
雑収入		3,243,000
経常収益 計		470,473,500
II 経常費用		
1 事業費		
(1) 人件費		
給料手当等	204,493,000	
有償ボランティア	2,135,000	
通勤交通費	3,583,000	
福利厚生費	428,000	
人件費 計	210,639,000	
(2) その他経費		
食材費	15,822,000	
印刷製本書籍費	1,636,000	
会議・研修費	433,000	
旅費交通費	1,518,000	
通信費	2,612,000	
消耗品費	7,290,000	
修繕費	1,200,000	
水道光熱費	12,268,000	
家賃支出	8,807,000	
リース料	7,600,900	
減価償却費	500,000	
生活支援CD事業費	1,954,000	
保険料・管理諸費	5,087,700	
街づくり対策費	360,000	
雑費	738,000	
その他経費 計	67,826,600	
(3) 事業・間接費		
給料手当等	47,245,000	
賞与手当	11,000,000	
法定福利費	30,900,000	
地代支出	4,800,000	
支払利息	18,781,000	
租税公課	9,257,000	
減価償却費	42,000,000	
事業・間接費 計	163,983,000	
事業費 計		442,448,600

2 管理費			
(1) 人件費			
給料手当等	2,548,000		
有償ボランティア	420,000		
通勤交通費	316,000		
福利厚生費	3,973,000		
人件費計	7,257,000		
(2) その他経費			
印刷製本書籍費	161,000		
会議費	343,000		
旅費交通費	586,000		
販売物品費	1,500,000		
通信費	673,000		
消耗品費	508,000		
修繕費	350,000		
水道光熱費	224,000		
家賃支出	420,000		
リース料	7,324,500		
研修費	1,277,000		
交際費	100,000		
保険料	1,698,000		
管理諸費	3,845,000		
雑費	850,000		
その他経費計	19,859,500		
管理費計		27,116,500	
経常費用計			469,565,100
当期経常増減額			908,400
III 経常外収益			
経常外収益計			0
IV 経常外費用			
経常外費用計			0
税引前当期正味財増減額			908,400
法人税、住民税及び事業税			70,000
当期正味財産増減額			838,400
前期繰越正味財産額			114,613,113
次期繰越正味財産額			115,451,513

資料

2021年度ぐるーぷ藤組織図

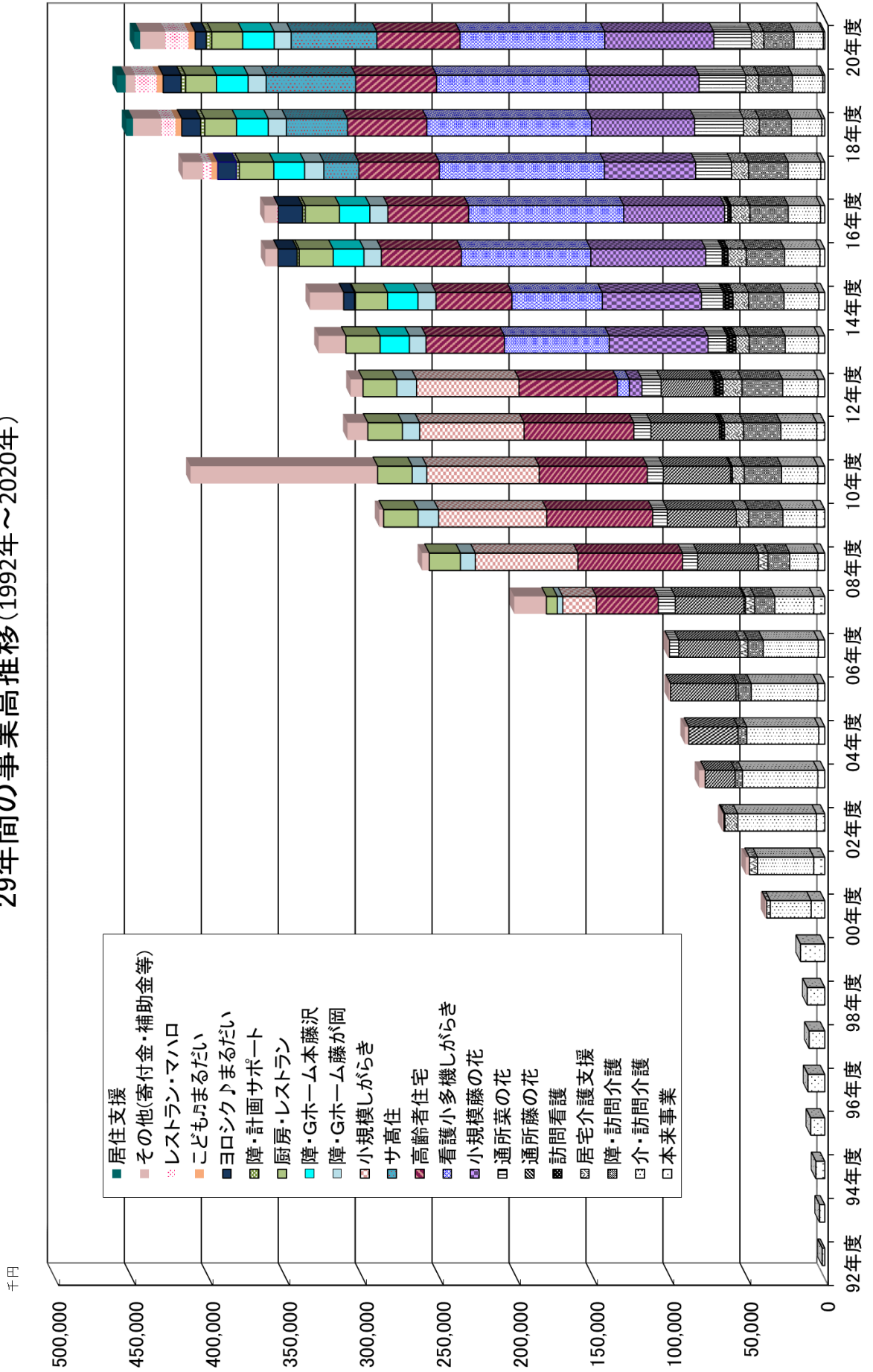


- 居住支援チーム(住まいる藤)
- 安全衛生委員会
- 研修プロジェクト
- 花どけい編集委員会
- 交流会企画委員会
- 防災委員会
- 三番館建設準備委員会
- 30周年実行委員会
- ※ボランティアすみれ

◆メンバー構成◆ 2021. 3. 31 現在

年代	人数	割合
20代	3名	2%
30代	6名	4%
40代	25名	17%
50代	49名	32%
60代	40名	26%
70代	25名	17%
80代	2名	1%
90代	1名	1%
合計	151名	

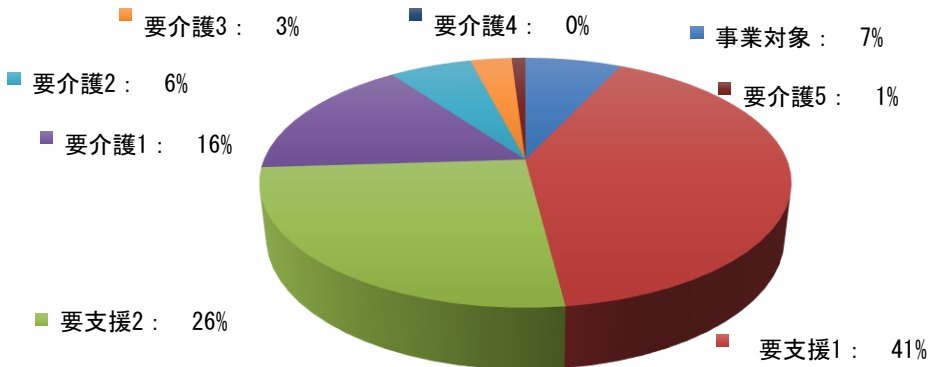
29年間の事業高推移 (1992年～2020年)



ご利用者 分布

(2021年3月)

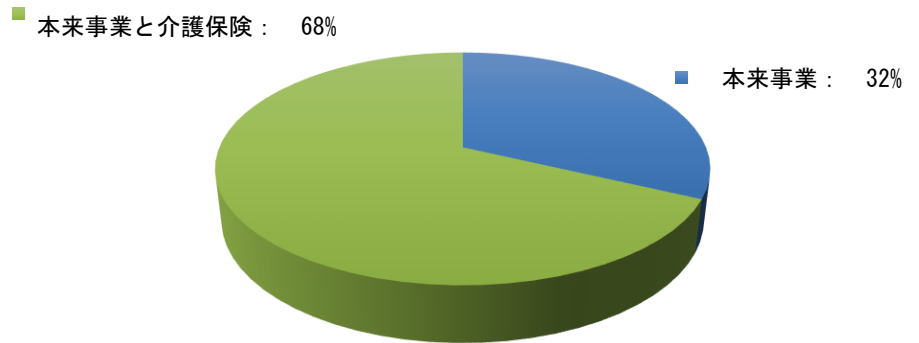
訪問介護(介護保険)



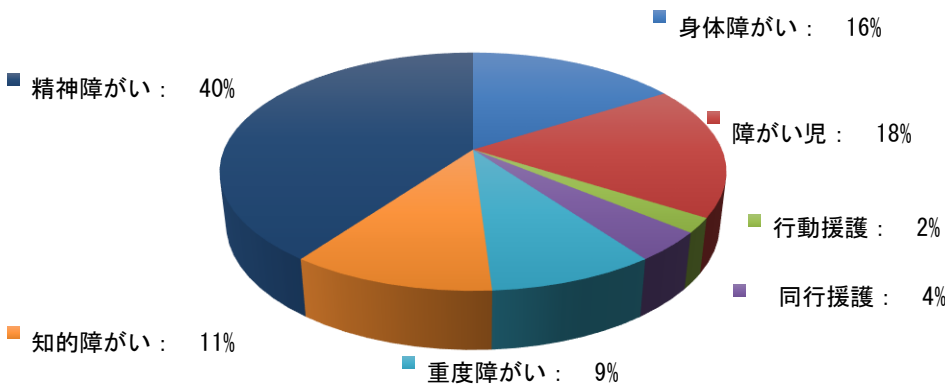
年齢	%
50歳代	0%
60歳代	11%
70歳代	26%
80歳代	47%
90歳代	16%

訪問介護(本来事業)

年齢	%
50歳代	1%
60歳代	6%
70歳代	21%
80歳代	53%
90歳代	19%



訪問介護(障がい者総合支援)



年齢	%
10歳未満	11%
10歳代	14%
20歳代	11%
30歳代	2%
40歳代	16%
50歳代	31%
60歳代	11%
70歳代	4%

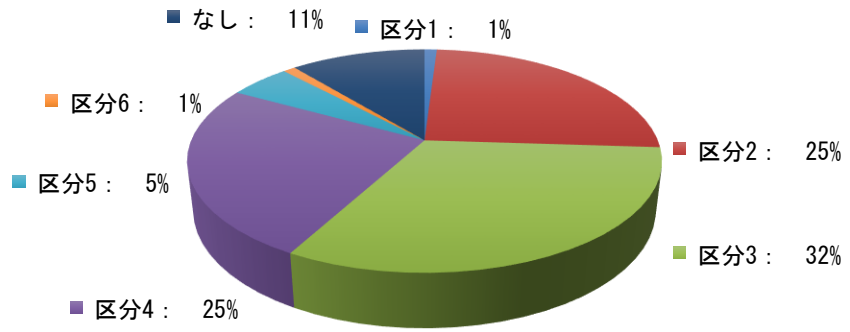
障がい者グループホーム

年齢	%
20歳代	6%
30歳代	18%
40歳代	18%
50歳代	35%
60歳代	24%

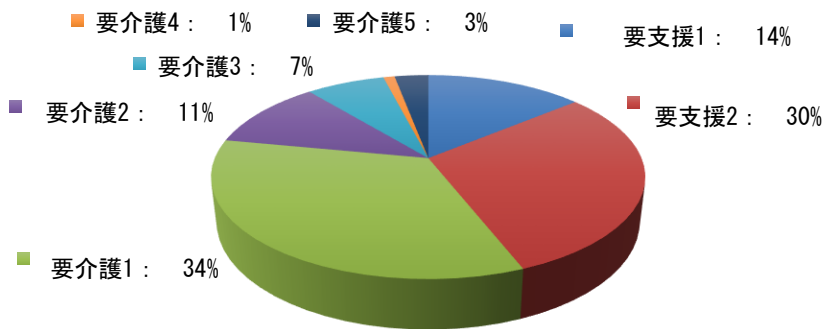


計画サポート

年齢	%
20 歳代	16 %
30 歳代	16 %
40 歳代	24 %
50 歳代	28 %
60 歳代	16 %



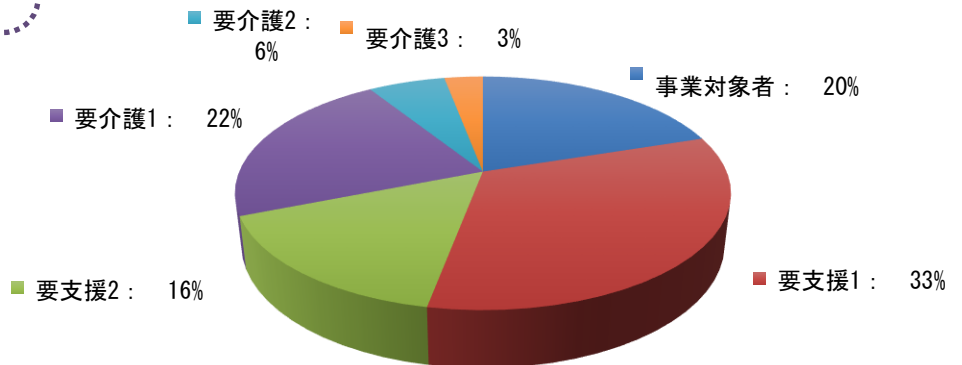
居宅介護支援



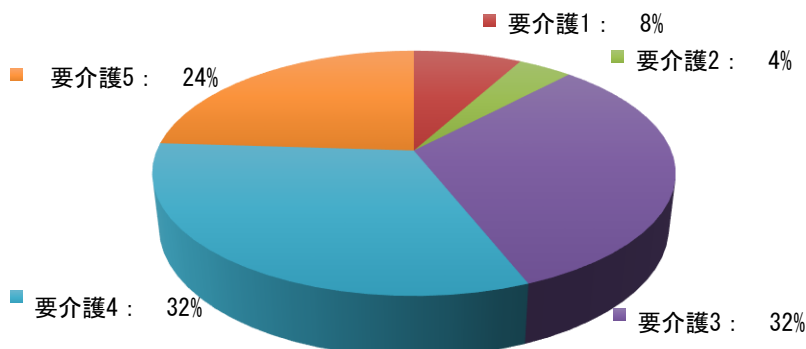
年齢	%
50 歳代	3 %
60 歳代	5 %
70 歳代	18 %
80 歳代	48 %
90 歳代	26 %

通所介護(アクアデイ菜の花)

年齢	%
60 歳代	2 %
70 歳代	28 %
80 歳代	53 %
90 歳代	17 %



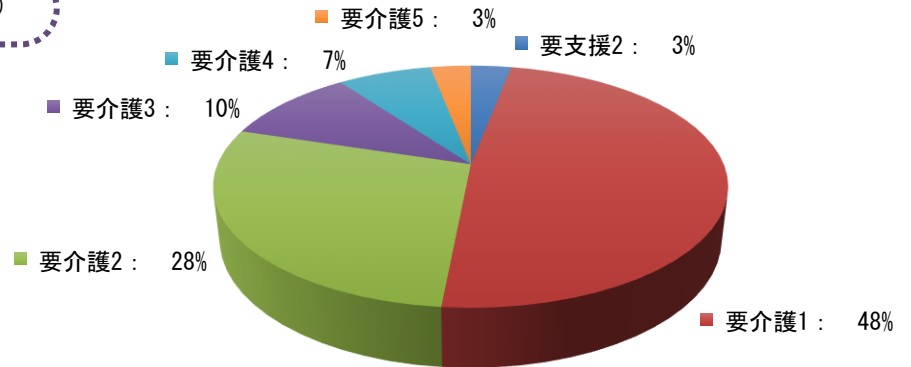
看護小規模多機能型居宅介護(しがらきの湯)



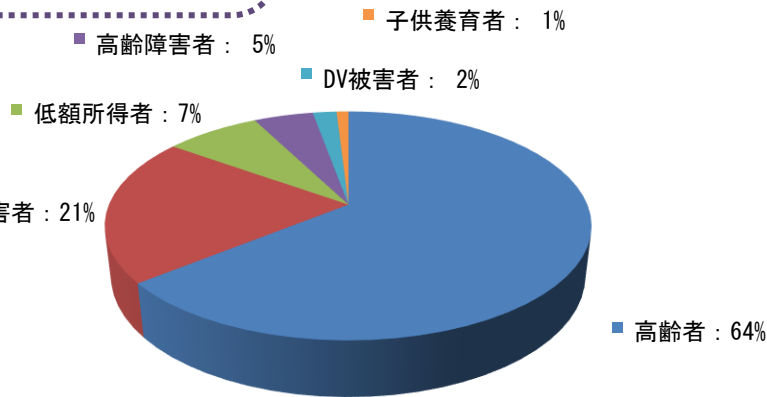
年齢	%
70 歳代	12 %
80 歳代	48 %
90 歳代	40 %

小規模多機能型居宅介護(藤の花)

年齢	%
60 歳代	3 %
70 歳代	3 %
80 歳代	48 %
90 歳代	45 %



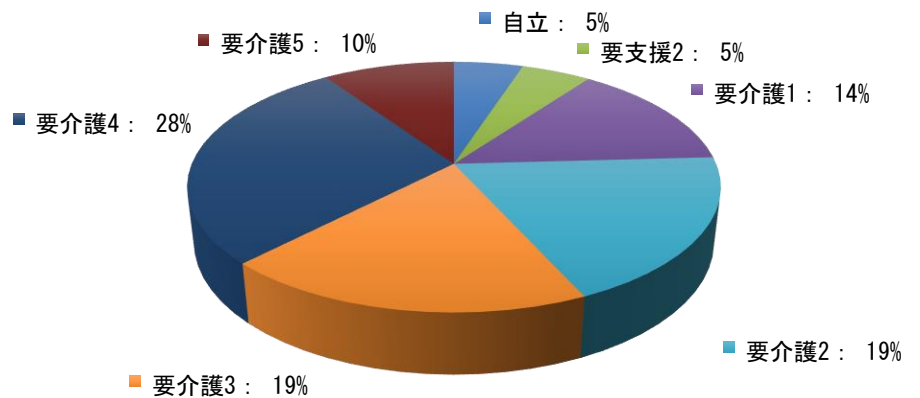
居住支援法人(住まいる藤)



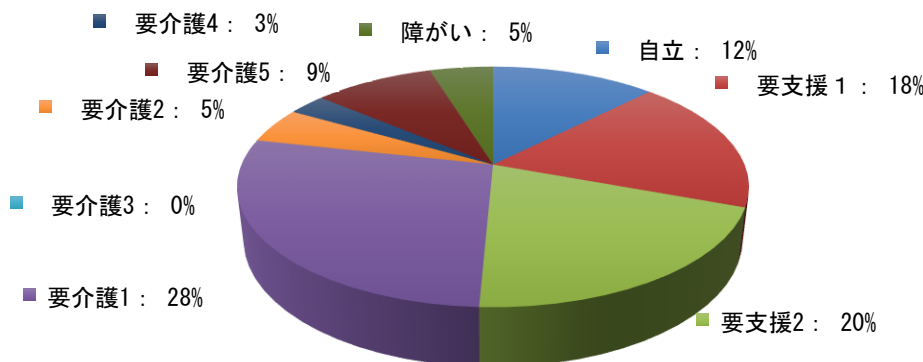
年齢	%
不明	11 %
20 歳代	2 %
30 歳代	8 %
40 歳代	6 %
50 歳代	8 %
60 歳代	11 %
70 歳代	17 %
80 歳代	31 %
90 歳代	6 %

高齢者住宅(一番館)

年齢	%
70 歳代	4 %
80 歳代	48 %
90 歳代	48 %



サービス付き高齢者向け住宅



年齢	%
60 歳代	5 %
70 歳代	13 %
80 歳代	48 %
90 歳代	34 %

2020年度 全体研修・部門別研修

		月 日	名 称
全体研修・部門外研修	内部研修	9月4,5,6日	新入会研修
		8月20日	ハラスメント研修
		9月14日～11月13日(10回)	理事長と語る会(理念研修)
		10月14日	ビジネスマナー研修「電話対応の極意」
		3月13日	就業規則/個人情報・プライバシー
	外部研修	6月5日	訪問看護及び福祉施設等の従事者向け新型コロナウイルス感染症対策研修会 主催:神奈川県
		10月7日	第3回障がい者グループホーム職員研修「記録の書き方」主催:(公社)かながわ福祉サービス振興会
		11月19日	コロナ感染症対策セミナー 主催:三友エンテック
		1月8日	フードバンク見学研修 主催:フードバンクふじさわ準備会
部門別研修	ヘルプーム	4月～3月(12回)	ヘルパー会議研修「ケアマニュアルの確認、認知症について」他
	一番館	4月～3月(9回)	スタッフ会議研修「事業所理念の共有と目標の作成」他
	菜の花	4月～3月(10回)	スタッフ会議研修「非常災害時の対応」他
	藤の花	4月～3月(9回)	スタッフ会議研修「事故発生予防又はその発生防止」
		11月16日	サービス毎での新型コロナウイルス感染症の対策を具体例から学ぶ
	しがらきの湯	4月～3月(9回)	スタッフ会議研修「感染症及び食中毒の発生の予防及び蔓延の防止」他
		2月18日	地域医療介護Webセミナー 主催:第一三共(株)
		2月19日	スキンケアオンライン講座「高齢者の皮膚の特徴とよくあるトラブル」主催:持田ヘルスケア(株)
		2月20日	病院連携等を通じた看多機強化セミナー 主催:厚生労働省
		3月12日	2021年度介護報酬改定について 主催:(一社)神奈川県介護支援専門員協会
	厨房	4月～3月(4回)	厨房部門研修「ソフト食について」他
		10月6日	CareTEXone横浜2020セミナー 主催:CareTEXone
		1月12日	摂食嚥下困難者の方への対応 主催:県医師会在宅医療トレーニングセンター
	マハロ	4月～3月(4回)	スタッフ会議研修「のどに食物を詰ませたときの対応」他
	藤が岡の家・本藤沢の家	9月10日	第1回障がいグループホーム職員研修「加算と研修」
		9月29日	第2回障がい者グループホーム職員研修「グループホームにおける虐待防止」主催:(公社)かながわ福祉サービス振興会
		10月27日	第4回障がいグループホーム職員研修「成年後見制度」主催:(公社)かながわ福祉サービス振興会
		11月12日	第6回障がいグループホーム職員研修「アンガーマネジメント」主催:(公社)かながわ福祉サービス振興会
		12月17日	「暮らしを支える人・社会資源～住まい～グループホーム・地域で暮らす」主催:藤沢市精神障害者家族会

		月 日	名 称
部門別研修	計画サポートぐるーい 心。藤	7月30日	事例検討会 主催:えぼめいく
		8月31日	スタッフ研修 グループホーム見学研修
		9月～12月(4回)	相談支援従業者現任研修 主催:神奈川県
		10月29日	事例検討会 主催:えぼめいく
		11月30日	相談支援従事者スキルアップ研修 主催:NPO法人神奈川障がいケアマネジメント従事者ネットワーク
	事務局	4月～3月(2回)	事務局会議研修「非常持ち出し物とバックアップ用ハードディスクの取り扱い方」他
		11月30日	共生社会の実現とNPOの役割 主催:市民協
		12月22日	Zoomレクチャー 講師:テニテ庭田氏
		2月15日	「介護保険制度改正・報酬改定のポイントと事業所に求められる対応策」主催:かながわ福祉サービス振興会
		3月12日	処遇改善加算の対応 主催:積水ホームテクノ
	ぐるーい が藤ケアマネジメント	4月～3月(10回)	ミーティング研修「ケアマネ活動における新型コロナウイルス感染症対策」他
		7月23日	キューピーやさしい献立(介護食) 主催:パナソニック
		10月22日	ケアプラン点検事業 主催:介護の未来
		10月26日	地域ケア会議事例検討会 主催:村岡地域包括支援センター
		11月12日	ケアマネサロン 主催:村岡地域包括支援センター
		3月10日	介護支援専門員資質向上研修会 主催:藤沢市介護保険課
		3月22日	保護観察所における被害者の支援 主催:藤沢市社会福祉協議会
	「住まいる藤」 居住支援チーム	10月8日	第1回「事例検討」 主催:藤沢市居住支援協議会
		11月19日	ミーティング研修「孤独死の死後事務等対処の現状」
		11月9日	第2回「事例検討」 主催:藤沢市居住支援協議会
		11月26日	居住支援の取り組み～安心して暮らせるささえ合いの形 主催:市民協
		11月30日	定期巡回サービスおよび居住支援業務との親和性 主催:24時間在宅ケア研究会
		12月4日	外国人の住まいと生活～多言語支援の現場から～ 主催:かながわ外国人住まいサポートセンター
		12月14日	第3回「事例検討」 主催:藤沢市居住支援協議会
		1月18日	「これからの賃貸住宅と入居支援」 主催:住まいる藤
		1月26日	「災害時における住宅確保要配慮者への支援検討会議」 主催:神奈川県居住支援協議会
1月29日		茅ヶ崎市「知っているようで知らない住まい探しの知識」主催:神奈川県居住支援協議会	
3月18日		第4回藤沢市居住支援協議会「居住支援に類する既存の施策について」「情報共有シートについての検討」 主催:藤沢市居住支援協議会	

年間活動一覧

2020年4月～2021年3月

月	日	内部活動	日	研修、学習	日	外部活動
4月	1 3 6 7 8 16 20 21 28	ホームヘルプミーティング 運営会議 しがらきリーダー会議 部門代表会議 一番館リーダー会議 税理士打ち合わせ 住まいる藤打ち合わせ 安全衛生委員会 厨房ミーティング	28	管理者研修	9	藤沢市個人情報保護制度運営審議会
5月	2 5 6 8 18 22 22 26 26 27 28	運営会議 部門代表会議 一番館リーダー会議 菜の花・しがらきスタッフ会議 藤の花リーダー会議 サ高住ミーティング 藤が岡の家・本藤沢の家ミーティング 厨房ミーティング 住まいる藤定例会 一番館・しがらきの湯・藤の花三部門ミーティング ケアマネミーティング			14 25	藤沢市個人情報保護制度運営審議会 認定NPO法人市民福祉団体全国協議会
6月	2 2 4 6 7 8 9 10 12 12 15 15 16 16 17 17 18 23 23 23 24 24 25 26 26 30 30	ホームヘルプミーティング 税理士打ち合わせ 運営会議 まるだいきッチン会議 第1回理事会 しがらきリーダー会議 部門代表会議 一番館リーダー会議 菜の花スタッフ会議 しがらきの湯スタッフ会議 一番館スタッフ会議 藤の花リーダー会議 計画サポートミーティング 防災委員会 まるだいきーディネーター会議 研修プロジェクト 厨房会議 研修プロジェクト 藤の花・しがらきの湯合同運営推進会議 厨房ミーティング 花どけい編集委員会 第2回理事会 ホームヘルプ新人オリエンテーション 一番館・しがらきの湯・藤の花三部門ミーティング ケアマネミーティング サ高住ミーティング 藤が岡の家・本藤沢の家ミーティング ナースミーティング 税理士打ち合わせ	5	コロナ感染症研修	3 8 10 17 24	認定NPO法人市民福祉団体全国協議会及び (一社)市民福祉協議会理事会 藤沢市個人情報保護制度運営審議会 生活支援コーディネーター会議
7月	1 2 6 6 7 7 7 8 8 9 10 13 13 16 16 20 22 23 24 24 28 28 28 28 30	住まいる隊ミーティング 運営会議 ホームヘルプミーティング しがらきの湯リーダー会議 研修プロジェクト 部門代表会議 菜の花スタッフ会議 一番館リーダー会議 まるだいきッチン会議 防災委員会 菜の花スタッフ会議 住まいる隊ミーティング 事務局会議 まるだいきーディネーター会議 交流会企画委員会 藤の花リーダー会議 一番館・しがらきの湯・藤の花三部門ミーティング ケアマネミーティング サ高住ミーティング 藤が岡の家・本藤沢の家ミーティング ホームヘルプミーティング ナースミーティング 厨房ミーティング 税理士打ち合わせ 運営会議	30	「事例検討会」主催:えほめいく	1 7 15 22 29	認定NPO法人市民福祉団体全国協議会及び (一社)市民福祉協議会理事会 ふじさわ福祉NPO法人連絡会 ふじさわ福祉NPO法人連絡会 生活支援コーディネーター会議 藤沢市居住支援協議会準備会 相談支援連絡会
8月	27 3 4 5 6 17 19 20 21 21 24 25 26 27 28 31	ケアマネミーティング しがらきの湯リーダー会議 部門代表会議 一番館リーダー会議 こどもまるだいき会議 計画サポートミーティング 厨房会議 まるだいきーディネーター会議 税理士打ち合わせ 防災委員会 藤の花リーダー会議 厨房ミーティング 一番館・しがらきの湯・藤の花三部門ミーティング 住まいる隊定例会 サ高住ミーティング 事務局会議	3		5 6 12 19 23 24 25 27 28 28	商工会議所贈呈式 藤沢市住まいと暮らし連絡会 認定NPO法人市民福祉団体全国協議会及び (一社)市民福祉協議会理事会 藤沢市個人情報保護制度運営審議会 ふじさわ福祉NPO法人連絡会 フードバンク部会 福岡Zoom会議 厚労省 藤沢市居住支援協議会設立総会 家ミーティング 生活支援コーディネーター会議
9月	1 3 4 4 5 7 8 9 9 14 17 21 22 23 24 24 24 25 29 29	ホームヘルプミーティング 運営会議 しがらきの湯リーダー会議 5新人研修 しがらきの湯リーダー会議 部門代表会議 菜の花スタッフ会議 ナースミーティング 住まいる隊ミーティング まるだいきーディネーター会議 藤の花リーダー会議 厨房ミーティング 一番館・しがらきの湯・藤の花三部門ミーティング ケアマネミーティング 税理士打ち合わせ 三番館建設準備委員会 サ高住ミーティング 藤が岡の家・本藤沢の家ミーティング 第3回理事会 30周年記念事業実行委員会	8 10 19	フードバンク見学 GH職員研修「グループホームでの加算と請求」 居場所事業担い手研修会	3 10 16 23 23	藤沢市住まいと暮らし連絡会 藤沢市個人情報保護制度運営審議会 認定NPO法人市民福祉団体全国協議会及び (一社)市民福祉協議会理事会 生活支援コーディネーター会議

月			
10月	<ul style="list-style-type: none"> 1 運営会議 5 住まいる隊ミーティング 5 しがらきの湯リーダー会議 6 部門代表会議 7 ナースミーティング 7 一番館リーダー会議 7 まるだいきッチン会議 10 しがらきの湯スタッフ会議 14 住まいる藤定例会 15 藤の花・しがらきの湯合同運営推進会議 15 マハロ会議 16 まるだいきッチン会議 19 計画サポートミーティング 22 ケアマネミーティング 23 サ高住ミーティング 23 藤が岡の家・本藤沢の家ミーティング 23 税理士打ち合わせ 26 藤の花リーダー会議 26 三番館建設準備委員会 27 厨房ミーティング 27 30周年記念事業実行委員会 28 一番館・しがらきの湯・藤の花三部門ミーティング 	<ul style="list-style-type: none"> 6 横浜フードテック 7 グループホーム職員研修「記録の書き方」 12 第1回理事長と語る会 主催：研修PJ 14 居住支援勉強会「電話対応の極意」主催：住まいる藤 14 第2回理事長と語る会 主催：研修PJ 18 第3回理事長と語る会 主催：研修PJ 19 第4回理事長と語る会 主催：研修PJ 22 第5回理事長と語る会 主催：研修PJ 	<ul style="list-style-type: none"> 1 藤沢市住まいと暮らし連絡会 8 藤沢市個人情報保護制度運営審議会 8 藤沢市居住支援協議会 14 15. 21. 28認定NPO法人市民福祉団体全国協議会及び(一社)市民福祉協議会理事会及び(一社)全国介護事業者協議会 16 ふじさわ福祉NPO法人連絡会 20 生活支援コーディネーター会議
11月	<ul style="list-style-type: none"> 3 運営会議 4 まるだいきッチン会議 9 しがらきの湯リーダー会議 10 ホームヘルプミーティング 10 部門代表会議 11 ナースミーティング 11 一番館リーダー会議 12 まるだいきッチン会議 16 藤の花リーダー会議 16 事務局会議 19 住まいる藤定例会 25 一番館・しがらきの湯・藤の花三部門ミーティング 25 厨房ミーティング 26 ケアマネミーティング 26 税理士打ち合わせ 27 サ高住ミーティング 27 藤が岡の家・本藤沢の家ミーティング 31 サ高住夜間駆け付けスタッフミーティング 	<ul style="list-style-type: none"> 12 グループホーム職員研修「アンガーマネジメント」 13 管理者研修 主催：研修PJ 19 居住支援勉強会「孤独死の死後事務等退所の現状」主催：住まいる藤 26 居住支援の取り組み～安心して暮らせる支え合いの形 主催：市民協 30 定期巡回サービスおよび居住支援業務との親和性 主催：24時間在宅ケア研究会 30 共生社会の実現とNPOの役割 主催：市民協 	<ul style="list-style-type: none"> 4 6. 11. 18. 19. 25認定NPO法人市民福祉団体全国協議会及び(一社)市民福祉協議会理事会及び(一社)全国介護事業者協議会 12 藤沢市個人情報保護制度運営審議会 24 かながわZonta講演会 講師 24 生活支援コーディネーター会議 27 社会福祉功労者表彰式(藤沢市社会福祉協議会)
12月	<ul style="list-style-type: none"> 3 運営会議 7 ホームヘルプミーティング 7 しがらきの湯リーダー会議 7 一番館リーダー会議 8 部門代表会議 9 ナースミーティング 10 計画サポートミーティング 12 菜の花スタッフ会議 14 住まいる隊ミーティング 17 まるだいきッチン会議 21 藤の花リーダー会議 21 税理士打ち合わせ 22 厨房ミーティング 22 第4回理事会 23 一番館・しがらきの湯・藤の花三部門ミーティング 24 ケアマネミーティング 25 サ高住ミーティング 25 藤が岡の家・本藤沢の家ミーティング 29 運営会議 	<ul style="list-style-type: none"> 4 外国人の住まいを考える 主催：かながわ外国人住まいサポートセンター 17 「事例検討会」主催：えぼめいく 22 Zoomレクチャー 講師：テニテ庭田氏 	<ul style="list-style-type: none"> 1 2. 8. 9. 16. 23. 30認定NPO法人市民福祉団体全国協議会及び(一社)市民福祉協議会理事会及び(一社)全国介護事業者協議会 10 藤沢市個人情報保護制度運営審議会 14 藤沢市居住支援協議会 17 保健所主催精神障害者家族教室「精神障がい者の住まい」講師 18 ふじさわ福祉NPO法人連絡会
1月	<ul style="list-style-type: none"> 4 しがらきの湯リーダー会議 4 ナースミーティング 4 一番館リーダー会議 5 部門代表会議 5 ホームヘルプミーティング 9 運営報告会 18 藤の花リーダー会議 21 まるだいきッチン会議 22 サ高住ミーティング 25 税理士打ち合わせ 26 厨房ミーティング 27 一番館・しがらきの湯・藤の花三部門ミーティング 27 安全衛生委員会 28 ケアマネミーティング 	<ul style="list-style-type: none"> 18 「これからの賃貸住宅と入居支援」主催：住まいる藤 26 神奈川県居住支援協議会「災害時における住宅確保要配慮者への支援検討会議」 29 神奈川県居住支援協議会 茅ヶ崎市「知っているようで知らない住まい探しの知識」 	<ul style="list-style-type: none"> 6 13. 15. 21. 22. 25認定NPO法人市民福祉団体全国協議会及び(一社)市民福祉協議会理事会及び(一社)全国介護事業者協議会 7 藤沢市住まいと暮らし連絡会
2月	<ul style="list-style-type: none"> 1 防災委員会 1 ホームヘルプミーティング 2 しがらきの湯リーダー会議 4 運営会議 6 30周年記念事業実行委員会 9 部門代表会議 8 一番館リーダー会議 10 ナースミーティング 11 住まいる隊ミーティング 12 藤の花リーダー会議 12 防災委員会 13 運営報告会 16 こどもまるだいきッチン会議 16 研修プロジェクト会議 18 計画サポートミーティング 18 まるだいきッチン会議 23 厨房ミーティング 24 一番館・しがらきの湯・藤の花三部門ミーティング 24 身体拘束防止委員会 25 税理士打ち合わせ 26 サ高住ミーティング 26 藤が岡の家・本藤沢の家ミーティング 26 住まいる藤定例会 28 ケアマネミーティング 	<ul style="list-style-type: none"> 15 「介護保険制度改正・報酬改定のポイントと事業所に求められる対応策」主催：かながわ福祉サービス振興会 18 地域医療介護Webセミナー 主催：第一三共(株) 19 スキンケアオンライン講座 主催：持田ヘルスケア(株) 20 「高齢者の皮膚の特徴とよくあるトラブル」主催：厚労省「病院連携等を通じた看多機強化セミナー」 	<ul style="list-style-type: none"> 2 江戸川総合人生大学 講師 8 10. 17. 24認定NPO法人市民福祉団体全国協議会及び(一社)市民福祉協議会理事会及び(一社)全国介護事業者協議会 19 藤沢市合同企業説明会(コロナ離職者支援)
3月	<ul style="list-style-type: none"> 2 ホームヘルプミーティング 3 まるだいきッチン会議 4 運営会議 8 一番館リーダー会議 8 しがらきの湯リーダー会議 9 部門代表会議 10 ナースミーティング 13 交流会企画委員会 13 運営報告会 15 藤の花リーダー会議 16 まるだいきッチン会議 19 事務局会議 19 税理士打ち合わせ 24 一番館・しがらきの湯・藤の花三部門ミーティング 25 ケアマネミーティング 26 サ高住ミーティング 26 藤が岡の家・本藤沢の家ミーティング 26 厨房ミーティング 26 三番館建設準備委員会 30 住まいる隊ミーティング 31 ホームヘルプミーティング 	<ul style="list-style-type: none"> 12 「2021年度介護報酬改定について」主催：(一社)神奈川県介護支援専門員協会 12 「処遇改善加算の対応」主催：積水ホームテクノ主催 	<ul style="list-style-type: none"> 2 シルバーサービス振興会ヒアリング 3 10認定NPO法人市民福祉団体全国協議会及び(一社)市民福祉協議会理事会及び(一社)全国介護事業者協議会 11 藤沢市住まいと暮らし連絡会 18 藤沢市居住支援協議会 25 生活支援コーディネーター会議 28 フードバンクふじさわ設立総会

提 案 者

理 事 長	佐藤 律子
会 長	鷺尾 公子
常務理事	笹原 美恵子
理 事	川島 進
理 事	木村 和規
理 事	倉持 泰雄
理 事	小林 純二郎
理 事	酒井 清美
理 事	藤井 美和
理 事	松岡 薫
監 事	小野 淑子
監 事	藤澤 抱一



歳をとっても病気になっても
障がいがあっても

いつまでも自分らしく暮らせる街を創りたい

第17回（通算第29回）通常総会議案書

発行日 2021年5月29日

発行者 認定NPO法人ぐるーぷ藤 理事会

住 所 藤沢市藤が岡1-4-2

電 話 0466-26-2001